

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for SAP
Software ユーザーズ・ガイド
バージョン 7 リリース 0
*Feature Pack 1***

IBM

WebSphere® Adapters

バージョン 7 リリース 0 Feature Pack 1

**WebSphere Adapter for SAP
Software ユーザーズ・ガイド
バージョン 7 リリース 0
*Feature Pack 1***

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、85ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® WebSphere Adapter for SAP Software バージョン 7 リリース 0 モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： WebSphere® Adapters Version 7 Release 0 Feature Pack 1
WebSphere Adapter for SAP Software User Guide
Version 7 Release 0 Feature Pack 1

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2010.6

© Copyright IBM Corporation 2006, 2010.

目次

WebSphere Adapter for SAP Software

の資料	1
このリリースの新機能	1
SAP 固有の日付形式の処理	1
BAPI Inbound 処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択	2
BAPI Outbound 処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択	4
BAPI 結果セット処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択	6
BAPI 作業単位処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択	8

IDoc Data Record 内の先頭にある空白文字のトリミング	11
ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ	11
ビジネス・オブジェクトでの空の XML タグの送信	36
ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ	36
拡張イベント処理の活動化仕様プロパティ	62
コンテンツの行タイプのサポート	83
BAPI インターフェース	83

特記事項 85

プログラミング・インターフェース情報	87
商標	87

WebSphere Adapter for SAP Software の資料

WebSphere® Adapter for SAP Software は、特殊なコーディングを必要としないで WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus のアプリケーションが SAP サーバー と対話し、ビジネス関数を実行する機能を提供します。アダプターは、要求を SAP サーバー に送信し、SAP サーバー で発生するイベントをモニターしてそれに応答することにより、作業します。

このリリースの新機能

このバージョンには、アダプターのビジネス柔軟性、ユーザー・エクスペリエンス、およびパフォーマンスを向上させるためのさまざまな新機能が含まれています。

サポートされている他の機能に関する詳細な情報は、WebSphere Adapter for SAP Software インフォメーション・センター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/dmndhelp/v7r0mx/index.jsp?topic=/com.ibm.wsadapters.jca.sap.doc/doc/stbp_sap_welcome.html) に記載されています。このサイトは、定期的に最新の情報に更新されます。

WebSphere Adapter for SAP Software は、以下の新機能をサポートしています。

- SAP 固有の日付形式の処理
- IDoc Data Record 内の先頭にある空白文字のトリミング
- ビジネス・オブジェクトでの空の XML タグの送信
- コンテンツの行タイプのサポート

注: WebSphere Integration Developer では、1 つのバージョンのアダプターのみをワークスペースにインポートしてください。バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプターが使用できます。

ランタイム環境のアプリケーション (EAR) には、1 つのバージョンの組み込み RAR ファイル (バージョン 7.0.0.1 のフィックスパックまたはバージョン 7.0.1.0 のフィーチャー・パックの、いずれかのアダプター) のみを含めるようにしてください。ノード・レベルがデプロイされたアダプターでも、1 つのバージョンのアダプターのみを組み込んでください。

SAP 固有の日付形式の処理

このアダプターでは、SAP 固有の日付形式において、これまで標準ではなかった形式をサポートするようになりました。これを実現するために、アダプターでは Date 形式のアダプターを String 値に変換してから処理します。この機能は、オブジェクトのディスカバー時に「Date フィールドを String 形式として処理 (Process Date Fields as String type)」チェック・ボックスを使用して構成できます。

BAPI Inbound 処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択

処理する関数を指定するには、外部サービス・ウィザードにこの情報を入力します。

始める前に

外部サービス・ウィザードの接続プロパティを設定したことを確認してください。

このタスクについて

外部サービス・ウィザードが SAP サーバーで関数を検出するために使用する検索基準を指定します。外部サービス・ウィザードは、その検索基準に合致した関数のリストを戻します。

検索基準を指定して 1 つ以上の関数を選択するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「エンタープライズ・システムでのオブジェクトの検索」ウィンドウで、作業する BAPI または BAPI のセットを指定します。

- a. 「RFC」をクリックして、フィルター



- ・ボタンを使用可能にします。

- b. フィルター・ボタンをクリックします。

注: フィルター機能を使用する代わりに、「RFC」を展開してリストから関数を選択するか、または「BOR」を展開して関数グループ (例えば、クロス・アプリケーション・コンポーネント (Cross-Application Components)) を展開し、BAPI を選択することもできます。その場合は、ステップ 4 (3 ページ) に進みます。

2. 「フィルター・プロパティ」ウィンドウから、ディスカバーする BAPI (複数可) に関する情報を指定します。

- a. 「ディスカバリーに使用するオブジェクト属性」リストから「オブジェクトを名前別にディスカバー」または「オブジェクトを説明別にディスカバー」を選択します。
- b. 呼び出す BAPI を表す検索ストリング、例えば、BAPI_CUSTOMER* と入力します。

これは、SAP での BAPI の名前にワイルドカード文字としてアスタリスクを加えて、BAPI_CUSTOMER という語句で始まるすべての SAP アプリケーション・コンポーネントのリストが必要であることを指示しています。

- c. 戻す関数の数を指定するために、「取得するオブジェクトの最大数」フィールドの値を変更するか、デフォルト値を受け入れます。
- d. 「OK」をクリックします。

3. BAPI (複数可) を選択します。

- a. 「RFC (フィルター済み) (RFC (filtered))」を展開します。
 - b. 「検出済みオブジェクト」リストで、使用する 1 つ以上の BAPI を選択します。
4. 矢印ボタンをクリックして、BAPI (複数可) を「選択済みオブジェクト」リストに追加します。
 5. 「構成パラメーター」ウィンドウで、BAPI ごとに以下の手順を実行して、インポートするビジネス・オブジェクトのリストにそれらの BAPI を追加します。
 - a. オプションで、「SAP フィールド名の元の文字ケースを使用してビジネス・オブジェクト属性名を生成」チェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、そのチェック・ボックスは選択されません。その場合は、フィールドの説明に基づいてプロパティが生成されます。
 - b. オプションで、「Date フィールドを String 形式として処理 (Process Date Fields as String type)」チェック・ボックスを選択します。これにより、Date 形式ではなく String 形式を使用することで、Java では標準的ではない SAP 固有の日付形式をアダプターが取得できるようになります。

注: この機能を使用するには、上述のチェック・ボックスが 外部サービス・ウィザードの実行中に選択されている必要があります。Date フィールドが String 形式に変換される際には、ダウンストリームでの依存関係 (存在する場合) がすべて考慮されます。

- c. BAPI にオプション・パラメーターが関連付けられている場合は、「子オブジェクトとして組み込むオプション・パラメーターを選択」チェック・ボックスを選択し、「オプション・パラメーター」を展開して、作業するパラメーターのタイプ (インポート、エクスポート、またはテーブル) を選択します。

デフォルトでは、外部サービス・ウィザードによって、選択した BAPI に必要なすべてのパラメーターが生成されるので、まずこのチェック・ボックスを選択してから、ビジネス・オブジェクトに組み込まないパラメーターのチェック・ボックスをクリアするようにしてください。

BAPI_CUSTOMER_GETDETAIL 関数モジュールを追加する際に、以下のパラメーターを追加することもできます。

オプション・インポート・パラメーター

PI_PASS_BUFFER

PI_DIVISION

PI_DISTR_CHAN

オプション・エクスポート・パラメーター

PE_ADDRESS

RETURN

オプション・パラメーターのリストと説明については、SAP の資料を参照してください。

- d. 「OK」をクリックして、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。

オブジェクトをリストから除去する場合は、オブジェクト名を選択して左矢印をクリックします。

6. 「次へ」をクリックします。

タスクの結果

外部サービス・ウィザードによって、検索基準に一致する関数または関数のリストが返され、使用する関数が選択されました。複合プロパティの指定ウィンドウが表示されます。

次のタスク

ビジネス・オブジェクトに関する情報 (オブジェクトに関連付けられている操作や SAP リモート関数呼び出しのタイプなど) を指定してください。

BAPI Outbound 処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択

呼び出す BAPI 関数と処理するデータを指定するには、外部サービス・ウィザードにこれらの情報を入力します。

始める前に

外部サービス・ウィザードの接続プロパティを設定したことを確認してください。


このタスクについて

外部サービス・ウィザードが SAP サーバーで BAPI 関数を検出するために使用する検索基準を指定します。外部サービス・ウィザードは、その検索基準に合致した BAPI 関数のリストを戻します。

検索基準を指定して 1 つ以上の BAPI 関数を選択するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「エンタープライズ・システムでのオブジェクトの検索」ウィンドウで、作業する BAPI または BAPI のセットを指定します。

- a. 「RFC」をクリックして、フィルター  アイコンを使用可能にします。
- b. フィルター・ボタンをクリックします。フィルター・プロパティウィンドウが表示されます。

注: フィルター機能を使用する代わりに、「RFC」を展開してリストから関数を選択するか、または「BOR」を展開して関数グループ (例えば、クロス・アプリケーション・コンポーネント (Cross-Application Components)) を展開し、BAPI を選択することもできます。その場合は、ステップ 4 (5 ページ) に進みます。

2. 「フィルター・プロパティ」ウィンドウから、ディスカバーする BAPI (複数可) に関する情報を指定します。

- a. 「ディスカバリーに使用するオブジェクト属性」リストから「オブジェクトを名前別にディスカバー」または「オブジェクトを説明別にディスカバー」を選択します。
- b. 呼び出す BAPI を表す検索ストリング、例えば、BAPI_CUSTOMER* と入力します。

これは、SAP での BAPI の名前にワイルドカード文字としてアスタリスクを加えて、BAPI_CUSTOMER という語句で始まるすべての SAP アプリケーション・コンポーネントのリストが必要であることを指示しています。

- c. 戻す関数の数を指定するために、「取得するオブジェクトの最大数」フィールドのデフォルト値を変更するか、デフォルト値を受け入れます。
 - d. 「OK」をクリックします。
3. BAPI (複数可) を選択します。
 - a. 「RFC (フィルター済み) (RFC (filtered))」を展開して、BAPI_CUSTOMER* の検索基準に一致するオブジェクトを表示します。
 - b. 「検出済みオブジェクト」リストで、使用する 1 つ以上の BAPI を選択します。
 4. 矢印ボタンをクリックして、選択した BAPI を「選択済みオブジェクト」リストに追加します。
 5. 「構成プロパティ」ウィンドウで、BAPI ごとに以下の手順を実行して、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。
 - a. オプションで、「SAP フィールド名の元の文字ケースを使用してビジネス・オブジェクト属性名を生成」チェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、そのチェック・ボックスは選択されません。その場合は、フィールドの説明に基づいてプロパティが生成されます。
 - b. オプションで、「Date フィールドを String 形式として処理 (Process Date Fields as String type)」チェック・ボックスを選択します。これにより、Date 形式ではなく String 形式を使用することで、Java では標準的ではない SAP 固有の日付形式をアダプターが取得できるようになります。

注: この機能を使用するには、上述のチェック・ボックスが 外部サービス・ウィザードの実行中に選択されている必要があります。Date フィールドが String 形式に変換される際には、ダウンストリームでの依存関係 (存在する場合) がすべて考慮されます。

- c. BAPI にオプション・パラメーターが関連付けられている場合は、「子オブジェクトとして組み込むオプション・パラメーターを選択」チェック・ボックスを選択し、「オプション・パラメーター」を展開して、作業するパラメーターのタイプ (インポート、エクスポート、またはテーブル) を選択します。

デフォルトでは、外部サービス・ウィザードによって、選択した BAPI に必要なすべてのパラメーターが生成されるので、まずこのチェック・ボックスを選択してから、ビジネス・オブジェクトに組み込まないパラメーターのチェック・ボックスをクリアするようにしてください。

BAPI_CUSTOMER_GETDETAIL 関数モジュールを追加する際に、以下のパラメーターを追加することもできます。

オプション・インポート・パラメーター:

PI_PASS_BUFFER

PI_DIVISION

PI_DISTR_CHAN

オプション・エクスポート・パラメーター:

PE_ADDRESS

RETURN

オプション・パラメーターのリストと説明については、SAP の資料を参照してください。

- d. 「OK」をクリックして、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。

オブジェクトをリストから除去する場合は、オブジェクト名を選択して左矢印をクリックします。

6. 「次へ」をクリックします。

タスクの結果

外部サービス・ウィザードによって、検索基準に一致する関数が戻され、作業に使用する関数が選択されました。複合プロパティの指定ウィンドウが表示されます。

次のタスク

ビジネス・オブジェクトに関する情報 (トップレベル・オブジェクトの名前や関連する操作など) を指定してください。

BAPI 結果セット処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択

使用する BAPI 関数と処理するデータを指定するには、外部サービス・ウィザードで情報を提供します。

始める前に

外部サービス・ウィザードの接続プロパティを設定したことを確認してください。


このタスクについて

外部サービス・ウィザードが SAP サーバーで BAPI 関数を検出するために使用する検索基準を指定します。外部サービス・ウィザードは、その検索基準に合致した BAPI 関数のリストを戻します。

検索基準を指定し、BAPI 関数を選択するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「エンタープライズ・システムでのオブジェクトの検索」ウィンドウで、作業する BAPI を指示します。

- a. 「RFC」をクリックして、フィルター  ボタンを使用可能にします。
- b. フィルター・ボタンをクリックします。

注: フィルター機能を使用する代わりに、「RFC」を展開してリストから関数を選択するか、または「BOR」を展開して関数グループ (例えば、クロス・アプリケーション・コンポーネント (Cross-Application Components)) を展開し、BAPI を選択することもできます。その場合は、ステップ 4 に進みます。

2. 「フィルター・プロパティ」ウィンドウから、BAPI に関する情報を指定します。
 - a. 「ディスカバリーに使用するオブジェクト属性」リストから「オブジェクトを名前別にディスカバー」または「オブジェクトを説明別にディスカバー」を選択します。
 - b. 呼び出す BAPI を表す検索ストリング、例えば、BAPI_CUSTOMER* と入力します。

これは、SAP での BAPI の名前にワイルドカード文字としてアスタリスクを加えて、BAPI_CUSTOMER という語句で始まるすべての SAP アプリケーション・コンポーネントのリストが必要であることを指示しています。

- c. 戻す関数の数を指定するために、「取得するオブジェクトの最大数」フィールドの値を変更するか、デフォルト値を受け入れます。
 - d. 「OK」をクリックします。
3. BAPI を選択します。
 - a. 「RFC (フィルター済み) (RFC (filtered))」を展開します。
 - b. 2 つの BAPI (GetList および GetDetail) を選択します。1 つの BAPI が照会を表し、もう 1 つが結果を表します。

次の図は、BAPI_CUSTOMER_GET* をフィルターとして入力した場合の「検出済みオブジェクト」のリストを示しています。

4. 矢印ボタンをクリックして、選択した BAPI を「選択済みオブジェクト」リストに追加します。
5. 「構成プロパティ」ウィンドウで、BAPI ごとに以下の手順を実行して、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。
 - a. オプションで、「SAP フィールド名の元の文字ケースを使用してビジネス・オブジェクト属性名を生成」チェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、そのチェック・ボックスは選択されません。その場合は、フィールドの説明に基づいてプロパティが生成されます。
 - b. オプションで、「Date フィールドを String 形式として処理 (Process Date Fields as String type)」チェック・ボックスを選択します。これにより、Date 形式ではなく String 形式を使用することで、Java では標準的ではない SAP 固有の日付形式をアダプターが取得できるようになります。

注: この機能を使用するには、上述のチェック・ボックスが 外部サービス・ウィザードの実行中に選択されている必要があります。Date フィールドが String 形式に変換される際には、ダウンストリームでの依存関係 (存在する場合) がすべて考慮されます。

- c. BAPI にオプション・パラメーターが関連付けられている場合は、「子オブジェクトとして組み込むオプション・パラメーターを選択」チェック・ボックスを選択し、「オプション・パラメーター」を展開して、作業するパラメーターのタイプ (インポート、エクスポート、またはテーブル) を選択します。

デフォルトでは、外部サービス・ウィザードによって、選択した BAPI に必要なすべてのパラメーターが生成されるので、まずこのチェック・ボックスを選択してから、ビジネス・オブジェクトに組み込まないパラメーターのチェック・ボックスをクリアするようにしてください。

BAPI_CUSTOMER_GETDETAIL 関数モジュールを追加する際に、以下のパラメーターを追加することもできます。

オプション・インポート・パラメーター:

PI_PASS_BUFFER
PI_DIVISION
PI_DISTR_CHAN

オプション・エクスポート・パラメーター:

PE_ADDRESS
RETURN

オプション・パラメーターのリストと説明については、SAP の資料を参照してください。

- d. 「OK」をクリックして、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。

オブジェクトをリストから除去する場合は、オブジェクト名を選択して左矢印をクリックします。

- 6. 「次へ」をクリックします。

タスクの結果

検索基準と一致する関数が外部サービス・ウィザードから返され、使用する関数が選択されました。複合プロパティの指定ウィンドウが表示されます。

次のタスク

ビジネス・オブジェクトに関する情報 (トップレベル・オブジェクトの名前や関連する操作など) を指定してください。

BAPI 作業単位処理のビジネス・オブジェクトおよびサービスの選択

呼び出す BAPI 関数と処理するデータを指定するには、外部サービス・ウィザードで情報を提供します。

始める前に

外部サービス・ウィザードの接続プロパティを設定したことを確認してください。


このタスクについて

外部サービス・ウィザードが SAP サーバーで BAPI 関数を検出するために使用する検索基準を指定します。外部サービス・ウィザードは、その検索基準に合致した BAPI 関数のリストを戻します。

検索基準を指定し、作業単位の BAPI 関数を選択するには、以下の手順を使用します。

手順

1. 「ディスカバリー・プロパティの指定」ウィンドウで、作業する BAPI を指示します。

- a. 「RFC」をクリックして、フィルター  ボタンを使用可能にします。
- b. フィルター・ボタンをクリックします。

注: フィルター機能を使用する代わりに、「RFC」を展開してリストから関数を選択するか、または「BOR」を展開して関数グループ (例えば、クロス・アプリケーション・コンポーネント (Cross-Application Components)) を展開し、BAPI を選択することもできます。その場合は、ステップ 4 に進みます。

2. 「フィルター・プロパティ」ウィンドウから、ディスカバーする BAPI に関する情報を指定します。
 - a. 「ディスカバリーに使用するオブジェクト属性」リストから「オブジェクトを名前別にディスカバー」または「オブジェクトを説明別にディスカバー」を選択します。
 - b. 呼び出す BAPI を表す検索ストリング、例えば、BAPI_CUSTOMER* と入力します。

これは、SAP での BAPI の名前にワイルドカード文字としてアスタリスクを加えて、BAPI_CUSTOMER という語句で始まるすべての SAP アプリケーション・コンポーネントのリストが必要であることを指示しています。

- c. 戻す関数の数を指定するために、「取得するオブジェクトの最大数」フィールドの値を変更するか、デフォルト値を受け入れます。
 - d. 「OK」をクリックします。
3. BAPI を選択します。
 - a. 「RFC (フィルター済み) (RFC (filtered))」を展開します。
 - b. 「検出済みオブジェクト」リストで、使用する 1 つ以上の BAPI を選択します。
 4. 矢印ボタンをクリックして、選択した BAPI を「選択済みオブジェクト」リストに追加します。

5. 「構成プロパティ」ウィンドウで、BAPI ごとに以下の手順を実行して、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。
 - a. オプションで、「SAP フィールド名の元の文字ケースを使用してビジネス・オブジェクト属性名を生成」チェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、そのチェック・ボックスは選択されません。その場合は、フィールドの説明に基づいてプロパティが生成されます。
 - b. オプションで、「Date フィールドを String 形式として処理 (Process Date Fields as String type)」チェック・ボックスを選択します。これにより、Date 形式ではなく String 形式を使用することで、Java では標準的ではない SAP 固有の日付形式をアダプターが取得できるようになります。

注: この機能を使用するには、上述のチェック・ボックスが 外部サービス・ウィザードの実行中に選択されている必要があります。Date フィールドが String 形式に変換される際には、ダウンストリームでの依存関係 (存在する場合) がすべて考慮されます。

- c. BAPI にオプション・パラメーターが関連付けられている場合は、「子オブジェクトとして組み込むオプション・パラメーターを選択」チェック・ボックスを選択し、「オプション・パラメーター」を展開して、作業するパラメーターのタイプ (インポート、エクスポート、またはテーブル) を選択します。

デフォルトでは、外部サービス・ウィザードによって、選択した BAPI に必要なすべてのパラメーターが生成されるので、まずこのチェック・ボックスを選択してから、ビジネス・オブジェクトに組み込まないパラメーターのチェック・ボックスをクリアするようにしてください。

BAPI_CUSTOMER_GETDETAIL 関数モジュールを追加する際に、以下のパラメーターを追加することもできます。

オプション・インポート・パラメーター:

PI_PASS_BUFFER
PI_DIVISION
PI_DISTR_CHAN

オプション・エクスポート・パラメーター:

PE_ADDRESS
RETURN

オプション・パラメーターのリストと説明については、SAP の資料を参照してください。

- d. 「OK」をクリックして、インポートするビジネス・オブジェクトのリストに BAPI を追加します。

オブジェクトをリストから除去する場合は、オブジェクト名を選択して左矢印をクリックします。

6. 「次へ」をクリックします。

タスクの結果

検索基準と一致する関数が外部サービス・ウィザードから返され、使用する関数が選択されました。複合プロパティの指定ウィンドウが表示されます。

次のタスク

ビジネス・オブジェクトに関する情報 (トップレベル・オブジェクトの名前や関連する操作など) を指定してください。

IDoc Data Record 内の先頭にある空白文字のトリミング

アダプターで、オプションとして IDoc Data Record 内での先頭の空白文字をトリミングできるようになりました。この動作は、新しいプロパティである「ALE IDoc フィールド・データのトリム (Trim ALE IDoc field data)」(trimAleData) EMD プロパティを使って制御できます。

ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイントについての Inbound イベント処理の構成情報を保持します。

活動化仕様プロパティは、エンドポイントの活動化中に使用され、アダプターに適切なイベント・リスナーを通知します。Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用してイベントを受信してから、エンドポイントにイベントを転送します。

活動化仕様プロパティは外部サービス・ウィザードを使用して設定します。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターを使用して変更することができます。また、デプロイメント後には、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus 管理コンソール を使用して変更することができます。

ALE Inbound 処理のための活動化仕様プロパティとその説明を、以下の表に示します。各プロパティの詳細については、表の後のセクションで説明します。表の後のセクションにあるプロパティ詳細表の読み方については、プロパティの詳細についてのガイドを参照してください。

表 1. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
14 ページの『失敗コード』	aleFailureCode	ディスパッチ失敗の状況コードを指定します。
15 ページの『失敗テキスト』	aleFailureText	ディスパッチ失敗の記述テキストを指定します。
15 ページの『ALE パケット 監査』	alePacketUpdate	アダプターは ALEAUD を IDoc ごとに送信するかパケット (TID) ごとに送信するかを指定します。
16 ページの『選択更新』	aleSelectiveUpdate	標準 SAP 状況コードを更新するようにアダプターを構成した場合、更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定します。

表 1. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
16 ページの『状況メッセージ・コード』	aleStatusMsgCode	必要に応じて、アダプターが ALEAUD Message IDoc (ALEAUD01) を通知するときに使用するメッセージ・コードを指定します。
17 ページの『成功コード』	aleSuccessCode	Application Document Posted の成功状況コードを指定します。
17 ページの『成功テキスト』	aleSuccessText	成功した Application Document Posted の記述テキストを指定します。
18 ページの『ALE 更新状況』	aleUpdateStatus	すべてのメッセージ・タイプで監査証跡が必要であるかどうかを指定します。
18 ページの『送達は 1 回のみ』	AssuredOnceDelivery	保証された 1 回のみを送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。
19 ページの『自動作成イベント・テーブル』	EP_CreateTable	イベント・リカバリー・テーブルが存在しない場合に、アダプターがそれを自動的に作成するかどうかを示します。
19 ページの『クライアント』	クライアント	アダプターの接続先となる SAP システムのクライアント番号。
20 ページの『コード・ページ番号』	Codepage	コード・ページの数値 ID を指定します。
21 ページの『イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI 名)』	EP_SchemaName	イベント・リカバリー・テーブルの自動作成に使用されるスキーマ。
21 ページの『セキュア・ネットワーク接続の有効化』	SncMode	セキュア・ネットワーク接続モードを使用しているかどうかを表します。
21 ページの『イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI 名)』	EP_DataSource_JNDIName	イベント・リカバリー用に構成されたデータ・ソースの JNDI 名。
22 ページの『イベント・リカバリー・テーブル名』	EP_TableName	イベント・リカバリー・テーブルの名前。
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、この回数に達すると失敗とマークされます。
23 ページの『RFC トレース・ファイルのフォルダー』	RfcTracePath	RFC トレース・ファイルが書き込まれるフォルダーに完全修飾ローカル・パスを設定します。
23 ページの『ゲートウェイ・ホスト』	GatewayHost	SAP ゲートウェイのホスト名。
24 ページの『ゲートウェイ・サービス』	GatewayService	RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID。
24 ページの『ホスト名』	ApplicationServerHost	アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。
25 ページの『IDoc 空タグ』	IDocEmptyTag	IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。

表 1. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
25 ページの『IDoc パケット・エラーの無視』	IgnoreIDocPacketErrors	IDoc パケットを処理中のアダプターでエラーが発生した場合のアダプターの動作を決定します。
26 ページの『言語コード』	言語コード	アダプターによる SAP へのログオンに使用される言語コードを指定します。
26 ページの『ログオン・グループ名』	Group	トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされた、アプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID。
27 ページの『ロード・バランシング』	loadBalancing	ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。
27 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』	connectionRetryLimit	アダプターは、指定された回数だけエンタープライズ情報システム (EIS) への接続を試行します。 Outbound 操作での接続例外の数を減らす必要がある場合にのみ選択してください。選択した場合、アダプターにより、各 Outbound 要求の接続が検証されます。
28 ページの『メッセージ・サーバー・ホスト』	MessageServerHost	メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。
28 ページの『リスナーの数』	NumberOfListeners	開始される予定のイベント・リスナーの数を指定します。
29 ページの『パートナー文字セット』	PartnerCharset	PartnerCharset エンコード方式を指定します。
29 ページの『パスワード』	パスワード	SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワード。
30 ページの『イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード』	EP_Password	データベースに接続するためのユーザー・パスワード。
30 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する』	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
30 ページの『RFC プログラム ID』	RfcProgramID	アダプターが SAP ゲートウェイに登録される際に使用される、リモート関数呼び出し ID。
31 ページの『RFC トレース・レベル』	RfcTraceLevel	全体的なトレース・レベルを指定します。
31 ページの『RFC トレース・オン』	RfcTraceOn	イベント・リスナーごとに RFC アクティビティの詳細を記述したテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。
32 ページの『SAP システム ID』	SAPSystemID	ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。
32 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』	SncLib	セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。
33 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』	SncMyname	セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。

表 1. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
33 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』	SncPartnername	セキュア・ネットワーク接続パートナーの名前を指定します。
34 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベル (Secure Network Connection security level)』	SncQop	セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベルを指定します。
34 ページの『システム番号』	SystemNumber	SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号。
34 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』	connectionRetryInterval	イベント・リスナーの再始動を試行する際の時間間隔を指定します。
35 ページの『ALE IDoc フィールド・データのトリム (Trim ALE IDoc field data)』	trimAleData	先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信するかどうかを指定します。
35 ページの『ユーザー名』	userName	SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウント。
36 ページの『イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名』	EP_UserName	データベースに接続するためのユーザー名。
36 ページの『X509 証明書 (X509 certificate)』	X509cert	ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

失敗コード

ここで入力する値によって、ALE モジュールがイベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に、アダプターが SAP 失敗状況コードを更新する方法が決まります。

表 2. 「ALE 失敗コード」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」
使用可能な値	68 58
デフォルト	40、51、68
プロパティ・タイプ	Integer

表2. 「ALE 失敗コード」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティの値を設定するのは、AleUpdateStatus の値を True に設定した場合に限られます。</p> <p>このプロパティに値 68 を指定すると、アダプターは、ALE モジュールがイベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に SAP 失敗状況コードを更新します。SAP は、この値を 40 (アプリケーション文書が受信側システムで作成されない) に変換します。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。エンドポイントに正常に送信されなかった IDoc は、失敗とみなされます。この失敗を示すコードを指定するには、ALE 失敗コード・プロパティを使用します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

失敗テキスト

IDoc がエンドポイントに正常に送信されなかったというイベントで表示されるテキスト。

表3. 「ALE 失敗テキスト」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	40、51、68
デフォルト	「68 エラー - これ以上処理されません」。テキスト・ボックス内の値は、失敗コードに応じて変更されます。
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティを True に設定した場合に限られます。</p> <p>テキスト・ストリングの長さは最大 70 文字です。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。エンドポイントに正常に送信されなかった IDoc は、失敗とみなされます。この失敗を示す説明テキストを指定するには、ALE 失敗テキスト・プロパティを使用します。</p>
例	ALE Dispatch Failed
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ALE パケット監査

パケットごとの ALE 更新は、アダプターが ALEAUD 監査 IDoc をパケットごとに送信するか IDoc ごとに送信するかを示します。

表4. 「ALE パケット監査 (ALE packet audit)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	False (IDoc ごとに ALEAUD を送信する)

表4. 「ALE パケット監査 (ALE packet audit)」の詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>AleUpdateStatus が True に設定されている場合のみ、このプロパティを使用可能または使用不可にすることができます。</p> <p>このプロパティを true に設定すると、アダプターは IDoc パケットごとに、そのパケット内のすべての IDoc に関する確認が含まれた ALEAUD を 1 つ送信します。</p> <p>このプロパティを false に設定すると、アダプターは、アダプターで受信された IDoc ごとに 1 つの ALEAUD を送信します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

選択更新

更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定します。

表5. 「ALE 選択更新」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティの値を設定できるのは、AleUpdateStatus を True に設定した場合に限られます。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定するには、ALE 選択更新プロパティを使用します。</p> <p>このプロパティの構文は、IDocType: MessageType [;IDocType: MessageType [;...]] です。スラッシュ (/) の区切り文字で各 IDocType と MessageType を区切り、セミコロン (;) の区切り文字でセット内の項目を区切ります。</p>
例	<p>次の例では 2 つのセットを指定しています。この例では、MATMAS03 と DEBMAS03 は IDoc です。また MATMAS と DEBMAS はメッセージ・タイプです。</p> <p>MATMAS03/MATMAS;DEBMAS03/DEBMAS</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

状況メッセージ・コード

このプロパティでは、アダプターが ALEAUD01 IDoc (メッセージ・タイプは ALEAUD) を通知するとき使用するメッセージ・コードを指定します。

表6. 「ALE 状況メッセージ・コード」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	使用可能なコードのリストについては、SAP テーブル TEDS1 を参照してください。
デフォルト	デフォルト値なし。

表 6. 「ALE 状況メッセージ・コード」の詳細 (続き)

プロパティー・タイプ	String
使用法	<ul style="list-style-type: none"> AleUpdateStatus に True を設定した場合に限り、このプロパティーに値を設定できます。 このメッセージ・コードは、SAP の受信側パートナーのプロファイルで構成する必要があります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

成功コード

IDoc を正常に通知できた場合の ALE サクセス・コード。

表 7. 「ALE サクセス・コード」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」
使用可能な値	30、41、55
デフォルト	「55 - アプリケーション文書が通知されました」。テキスト・ボックス内の値は、成功コードに応じて変更されます。
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	<p>このプロパティーを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティーを True に設定した場合に限られます。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティーを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。通知する IDoc のコードを 53 として指定するには、ALE サクセス・コード・プロパティーを使用します。</p> <p>IDoc をエンドポイントに送信した後でも、SAP では IDoc の状況は 03 (IDoc がポートに通知される) のままです。IDoc の通知後に、アダプターは、現在の IDoc 番号と状況 53 と共に監査 IDoc を通知します。SAP は、現在の IDoc の状況を 41 (アプリケーション文書が受信側システムで作成される) に変換します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

成功テキスト

アプリケーション文書が正常に通知されたときに表示されるテキストです。

表 8. 「ALE サクセス・テキスト」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	30、41、55
デフォルト	「55 - アプリケーション文書が通知されました」。テキスト・ボックス内の値は、成功コードに応じて変更されます。
プロパティー・タイプ	String

表 8. 「ALE サクセス・テキスト」の詳細 (続き)

使用法	このプロパティを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティを True に設定した場合に限られます。 テキスト・ストリングの長さは最大 70 文字です。 AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。Application Document Posted を示す説明テキストを指定するには、ALE サクセス・テキスト・プロパティを使用します。
例	ALE Dispatch OK
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ALE 更新状況

このプロパティは、すべてのメッセージ・タイプで監査証跡が必要であるかどうかを指定します。

表 9. 「ALE 更新状況」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	ALE モジュールがイベント処理用に IDoc オブジェクトを取得した後に、アダプターが標準 SAP 状況コードを更新するようにしたい場合は、このプロパティを True に設定します。 この値を True に設定した場合は、以下のプロパティも設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • AleFailureCode • AleSuccessCode • AleFailureText • AleSuccessText
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

送達は 1 回のみ

このプロパティでは、保証された 1 回のみの送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。

表 10. 「送達は 1 回のみ」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean

表 10. 「送達は 1 回のみ」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ 配信されます。値を False にすると、1 回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合にのみ使用されます。エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象でない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

自動作成イベント・テーブル

イベント・テーブルを自動的に作成するかどうかを指定します。

表 11. 「自動作成イベント・テーブル」の詳細

必須	「イベントの送達は 1 回のみ」を True に設定した場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティは、イベント・リカバリー・テーブルが存在しない場合に、アダプターがそれを自動的に作成するかどうかを示します。</p> <p>管理コンソールでは、このプロパティが「EP_CreateTable」と表示されます。</p> <p>True の値を指定してテーブルを自動的に作成する場合は、イベント・テーブルに関する情報 (イベント・リカバリー・テーブルの名前など) を指定する必要があります。</p> <p>イベント・リカバリー・テーブル名プロパティとして指定する値を使用して、テーブルが作成されます。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

クライアント

このプロパティは、アダプターによって接続される SAP システムのクライアント番号です。

表 12. 「クライアント」の詳細

必須	はい
使用可能な値	000 から 999 までの範囲の値を入力することができます。
デフォルト	100

表 12. 「クライアント」の詳細 (続き)

プロパティ・タイプ	Integer
使用法	アプリケーションで SAP サーバーへのログオンが試みられる際に、SAP サーバーによって、このアプリケーションにそれに関連付けられたクライアント番号があることが要求されます。「クライアント」プロパティ値は、SAP サーバーへのログオンを試みているクライアント (アダプター) を識別するものです。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

コード・ページ番号

コード・ページの数値 ID。

表 13. 「コード・ページ番号」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0000 から 9999 までの範囲の値を入力することができます。 SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。
デフォルト	このプロパティのデフォルト値は、「言語コード」プロパティに設定された値の条件に従って決定されます。
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	コード・ページ番号に割り当てられた値によって使用するコード・ページが定義され、またこの値は言語コード・プロパティに設定された値と 1 対 1 の関係です。コード・ページ番号により、該当の言語との関連付けが設定されます。 各言語コード値には、それに関連付けられたコード・ページ番号値があります。例えば、英語の言語コードは EN です。使用する言語コードとして「EN (英語)」を選択した場合は、コード・ページ番号は「EN (英語)」に関連付けられた数値に自動的に設定されます。EN (英語) の SAP コード・ページ番号は 1100 です。
例	「言語コード」を JA (日本語) に設定した場合は、「コード・ページ番号」は 8000 に設定されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

データベース・スキーマ名

このプロパティは、イベント・リカバリー・テーブルの自動作成に使用されるスキーマです。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_SchemaName」と表示されません。

表 14. 「データベース・スキーマ名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし。

表 14. 「データベース・スキーマ名」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	String
使用法	アダプター・イベント・パーシスタンス機能で使用するデータベースのスキーマ名を指定します。
例	ALE_SCHEMA
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続の有効化

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続モードを有効にするかどうかを表します。

表 15. 「セキュア・ネットワーク接続の有効化」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 (オフ) 1 (オン)
デフォルト	0
プロパティタイプ	String
使用法	<p>セキュア・ネットワーク接続を使用する場合は、この値を 1 (オン) に設定します。</p> <p>この値を 1 に設定した場合は、以下のプロパティも設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 32 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』 • 33 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』 • 33 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』 • 34 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)』。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名

このプロパティは、イベント・リカバリー用に構成されたデータ・ソースの JNDI 名です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_DataSource_JNDIName」と表示されます。

表 16. 「イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし.
プロパティタイプ	String

表 16. 「イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI 名)」の詳細 (続き)

使用法	イベントのリカバリー処理で使用します。このデータ・ソースは、管理コンソール に作成する必要があります。アダプターは、イベントの状態を保持する ためにデータ・ソースを使用します。
例	jdbc/DB2
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

イベント・リカバリー・テーブル名

このプロパティーは、イベント・リカバリー・テーブルの名前です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティーが「EP_TableName」と表示されます。

表 17. 「イベント・リカバリー・テーブル名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし.
プロパティー・タイプ	String
使用法	イベントのリカバリー処理で使用します。命名規則については、データベースの資料を参照してください。 エンドポイントごとに別々のイベント・リカバリー・テーブルを構成することをお勧めします。すべてのイベント・リカバリー・テーブルを保持するために、同じデータ・ソースを使用することができます。
例	EVENT_TABLE
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティーは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 18. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティー・タイプ	Integer

表 18. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p>デフォルト</p> <p>このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p>0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試みます。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p>> 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p>< 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・ファイルのフォルダー

このプロパティは、RFC トレース・ファイルの書き込み先となるフォルダーの完全修飾ローカル・パスを設定します。

表 19. 「RFC トレース・ファイルのフォルダー」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>RFC トレース・ファイルが書き込まれる完全修飾ローカル・パスを指定します。</p> <p>「RFC トレース・オン」が False (選択しない) に設定されている場合、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」プロパティの値を設定することはできません。</p> <p>既存の成果物を変更する場合、このフィールドは編集できません。</p>
例	c:\temp\rfcTraceDir
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・ホスト

このプロパティは、ゲートウェイ・ホストの名前です。ゲートウェイ・ホストの IP アドレスまたは名前のいずれかを入力します。ゲートウェイ・ホストの名前に関する詳細については、SAP 管理者に問い合わせてください。

表 20. 「ゲートウェイ・ホスト」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	このプロパティは、SAP ゲートウェイのホスト名です。このゲートウェイによって、SAP システム上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。 指定されたホストは、リソース・アダプター用のゲートウェイとして使用されます。 最大長は 20 文字です。コンピューター名の長さが 20 文字を超える場合は、THOSTS テーブル内にシンボル名を定義します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・サービス

このプロパティは、RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID です。

表 21. 「ゲートウェイ・サービス」の詳細

必須	はい
デフォルト	sapgw00
プロパティタイプ	String
使用法	これらのサービスによって、SAP サーバー上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。このサービスの名前は、通常 sapgw00 という形式で、00 が SAP システム番号です。 最大 20 文字です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ホスト名

アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。

表 22. 「ホスト名」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用されない場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	アダプターをロード・バランシングなしで実行するように構成した場合は、このプロパティで、アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバーの IP アドレスまたは名前を指定します。
例	sapServer
グローバル化	いいえ

表 22. 「ホスト名」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

IDoc 空タグ

このプロパティは、IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。

表 23. IDoc 空タグ

必須	いいえ
使用可能な値	BEFORE_AND_AFTER ONLY_BEFORE ALL_UNPOPULATED_FIELDS_SEGMENTS
デフォルト	ONLY_BEFORE
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティを使用して、以下の IDoc 空タグのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> BEFORE_AND_AFTER - IDoc セグメント内のデータ取り込み済みフィールドの前後において、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。 ONLY_BEFORE - IDoc セグメント内のデータ取り込み済みフィールドの前に、データが取り込まれていないフィールドの空タグを組み込みます。 ALL_UNPOPULATED_FIELDS_SEGMENTS - すべての IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

IDoc パケット・エラーの無視

IDoc パケット・エラーを無視するかどうかを指定します。

表 24. 「IDOC パケット・エラーの無視」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean

表 24. 「IDOC パケット・エラーの無視」の詳細 (続き)

使用法	<p>アダプターは、IDOC パケットの処理中にエラーに遭遇すると、以下の 2 つの動作のうちのどちらかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このプロパティーが False に設定されている場合、アダプターはそのパケット内の IDOC の処理の続行を中止し、SAP システムにエラーを報告します。 このプロパティーが True に設定されている場合、アダプターはエラーをログに記録し、そのパケット内の残りの IDOC の処理を継続して行います。 <p>トランザクションの状況には、INPROGRESS というマークが付けられます。アダプターのログに、失敗した IDOC の番号が表示されているため、それらの個々の IDOC を個別に再実行依頼する必要があります。これらのレコードは、イベント・リカバリー・テーブルで手動で保守する必要があります。</p> <p>このプロパティーは、単一の IDOC および非分割 IDOC パケットには使用されません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

言語コード

このプロパティーでは、アダプターによるログオンに使用される「言語コード」を指定します。

表 25. 「言語コード」の詳細

必須	はい
使用可能な値	SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。
デフォルト	「言語コード」プロパティーのデフォルト値は、システム・ロケールに基づきます。
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>サポートされる各言語の前に 2 文字の言語コードが付いています。言語自体は括弧内に表示されます。</p> <p>リスト内に表示される言語コードは、SAP のデフォルトの非 Unicode システムとアラビア語用の 41 の言語一式を表します。</p> <p>選択した値によって、「コード・ページ番号」プロパティーの値が決まります。</p> <p>言語コードを手動で入力する場合は、言語を括弧で囲んで入力する必要はありません。</p>
例	システム・ロケールが英国の場合は、このプロパティーの値は EN (英語) です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ログオン・グループ名

このプロパティーは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・balancing用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID です。

表 26. 「ログオン・グループ」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
使用可能な値	ログオン・グループの作成、およびトランザクション SMLG の呼び出しについては、SAP の資料を参照してください。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	<p>アダプターがロード・バランシング用に構成された場合は、このプロパティは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前を表します。</p> <p>ログオン・ロード・バランシングにより、ログオン接続の複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスへの動的分散が可能になります。</p> <p>最大 20 文字です。ほとんどの SAP システムでは、SPACE ログオン・グループが SAP によって予約されています。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ロード・バランシング

このプロパティでは、ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。

表 27. ロード・バランシングの詳細

必須	はい
使用可能な値	TrueFalse
デフォルト	False
プロパティタイプ	Boolean
使用法	SAP 構成でロード・バランシングが使用されている場合、この値は TRUE に設定する必要があります。TRUE に設定する場合は、メッセージ・サーバーのホスト、ログオン・グループ、および SAP システム ID が指定される必要があります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の最大再試行回数

このプロパティは、アダプターがエンタープライズ情報システム (EIS) への接続の作成を試行する回数を指定します。アダプターは、指定された回数だけ EIS への接続を試行します。Outbound 操作での接続例外の数を減らす必要がある場合のみ選択してください。選択した場合、アダプターにより、各 Outbound 要求の接続が検証されます。

表 28. 「クライアントのリセット (Reset Client)」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数

表 28. 「クライアントのリセット (Reset Client)」の詳細 (続き)

デフォルト	0
プロパティタイプ	Integer
使用法	<p>正の値のみが有効です。</p> <p>アダプターが Outbound 接続に関連するエラーを検出した場合、アダプターは、(物理接続が確立されていない場合) システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒) プロパティに指定された時間遅延に基づいて、このプロパティに指定された回数だけ物理接続の確立を試行します。</p> <p>この値が 0 の場合、アダプターは、EIS 接続の検証は実行せずに Outbound 操作を実行します。</p> <p>この値が > 0 の場合、アダプターは各要求時に EIS 接続がアクティブかどうかを検証します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 接続が有効な場合、操作は完了します。 • 接続が無効な場合、アダプターは現在の管理接続を無効にします。新しい管理接続 (新規物理接続) が作成されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

メッセージ・サーバー・ホスト

このプロパティでは、メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。

表 29. 「メッセージ・サーバー・ホスト」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	<p>このプロパティは、この SAP システムに属しているすべてのサーバー (インスタンス) にロード・バランシングに使用される他のサーバーの存在を通知するホストの名前を指定します。</p> <p>メッセージ・サーバー・ホストには、RFC クライアントを適切なアプリケーション・サーバーに誘導できるように、RFC クライアント用のロード・バランシングに関する情報が含まれていません。</p>
例	SAPER05
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

リスナーの数

このプロパティでは、イベントによって開始されるリスナーの数を指定します。

表 30. 「リスナーの数」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1

表 30. 「リスナーの数」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	Integer
使用法	<p>イベントの順序付けのために、このプロパティは 1 に設定してください。</p> <p>アダプターのパフォーマンスを向上させるには、リスナーの数を増やします。</p> <p>注: リスナーの数が 0 の場合、アダプターは開始されません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パートナー文字セット

このプロパティでは、パートナー文字セットのエンコードを指定します。

表 31. 「パートナー文字セット」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	UTF-8
プロパティタイプ	String
使用法	エンコード方式が指定されている場合にはその方式が使用されますが、それ以外はデフォルトのエンコード方式が使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パスワード

このプロパティは、SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワードです。

表 32. 「パスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	<p>パスワードに対する制約事項は、SAP Web Application Server のバージョンによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SAP Web Application Server バージョン 6.40 以前では、パスワードに以下の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> - 大文字である必要があります - 長さが 8 文字である必要があります • SAP Web Application Server バージョン 6.40 よりも後のバージョンでは、パスワードの制限が以下のように変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> - 大文字小文字を区別しません - 長さが 40 文字まで可能です
グローバル化	いいえ

表 32. 「パスワード」の詳細 (続き)

BIDI 対応	はい
---------	----

イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード

このプロパティは、データベースに接続するためのユーザー・パスワードです。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_Password」と表示されます。

表 33. 「イベント・データ・ソースに接続するためのパスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし.
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・ソースからのデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用するパスワードを指定します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

開始時に EIS 接続を再試行する

このプロパティは、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。このプロパティは、27 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』および 34 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』と共に使用されます。

表 34. 開始時に EIS 接続を再試行する

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>値が true である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行することを示します。以下のプロパティの値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 27 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』 34 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』 <p>値が false である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行しないことを示します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC プログラム ID

このプロパティは、アダプターが SAP ゲートウェイに登録される際に使用されるプログラム ID です。

表 35. 「RFC プログラム ID」の詳細

必須	はい
使用可能な値	SAP トランザクション SM59 (Display and Maintain RFC Destinations (RFC 宛先の照会と更新)) を使用して、選択可能な RFC プログラム ID のリストを確認します。
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティタイプ	String
使用法	アダプターは、リスナー・スレッドが RFC 対応関数からのイベントを処理できるように、ゲートウェイに登録されます。この値は、SAP アプリケーション内に登録されたプログラム ID と一致している必要があります。 最大長は 64 文字です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・レベル

このプロパティでは、全体的なトレース・レベルを指定します。

表 36. 「RFC トレース・レベル」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 - エラーなし 1 - エラーおよび警告 2 - 実行パス、エラーおよび警告 3 - 完全な実行パス、エラーおよび警告 4 - 実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 6 - 完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 7 - デバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 8 - 詳細なデバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告
デフォルト	1
プロパティタイプ	Integer
使用法	「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・オン

このプロパティでは、イベント・リスナーごとの RFC アクティビティの詳細が記載されたテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。

表 37. 「RFC トレース・オン」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False

表 37. 「RFC トレース・オン」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>値 True を指定すると、トレースが活動化され、テキスト・ファイルが生成されます。</p> <p>このファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリー内に作成されます。このファイルには、rfx という接頭部と trc というファイル・タイプ (例えば、rfc03912_02220.trc) が付きます。</p> <p>これらのテキスト・ファイルは、すぐにサイズが大きくなる可能性があるため、開発環境のみで使用してください。</p> <p>「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」または「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。</p>
例	<p>このファイル内の情報には、例えば、RfcCall FUNCTION BAPI_CUSTOMER_GETLIST とその後にインターフェース内のパラメーターの情報、または RFC Info rfctable とその後にインターフェース・テーブルの 1 つからのデータなどがあります。</p> <p>このトレース・ファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリー内に作成されます。トレース・ファイルには .trc というファイル拡張子が付き、ファイル名には先頭に文字 rfc が付きその後に固有 ID が付きます。例えば、rfc03912_02220.trc となります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

SAP システム ID

このプロパティでは、ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。

表 38. 「SAP システム ID」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	値は 3 文字である必要があります
例	DYL
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。

表 39. 「セキュア・ネットワーク接続のライブラリー・パス (Secure Network Connection library path)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし

表 39. 「セキュア・ネットワーク接続のライブラリー・パス (Secure Network Connection library path)」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、サービスを提供するライブラリーのパスも指定します。
例	/WINDOWS/system32/gssapi32.dll
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。

表 40. 「セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続名を指定します。
例	DOMAINNAME/USERNAME
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続のパートナーの名前を指定します。

表 41. 「セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続パートナーの名前を指定します。
例	CN=sap00.saperpdev, OU=Adapter, O=IBM, C=US
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)

このプロパティーは、セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベルを指定します。

表 42. 「セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
使用可能な値	1 (認証のみ) 2 (保全性保護) 3 (プライバシー保護) 8 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/use の値を使用) 9 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/max の値を使用)
デフォルト	3 (プライバシー保護)
プロパティー・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティーを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続のセキュリティー・レベルを示す値を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム番号

このプロパティーは、SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号です。

表 43. 「システム番号」の詳細

必須	はい
使用可能な値	00 から 99 までの範囲の値を入力することができます
デフォルト	00
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	システム番号では、さらに「ゲートウェイ・サービス」を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)

このプロパティーは、エンタープライズ情報システム (EIS) への接続を試行する際の時間間隔を指定します。

表 44. 「システム接続に失敗した場合の再試行間隔」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	正整数
デフォルト	60000
計測単位	ミリ秒

表 44. 「システム接続に失敗した場合の再試行間隔」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	Integer
使用法	このプロパティでは、アダプターで Outbound 接続に関連するエラーが発生したときに、アダプターが Outbound 接続の再確立を試行してから再度試行するまでの間に待機する時間間隔を指定します。これはデフォルトでは使用不可になっており、システム接続に失敗した場合の最大再試行回数の値が 0 より大きい場合のみ使用可能になります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ALE IDoc フィールド・データのトリム (Trim ALE IDoc field data)

このプロパティは、先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信するかどうかを指定します。

表 45. トリムする、ALE IDoc フィールド日付を

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティタイプ	Boolean
使用法	先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信する場合は、値を True に設定します。デフォルトでは、この値は True に設定されています。 先頭の空白文字をアダプターによってトリムしない場合は、値を False に設定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ユーザー名

このプロパティは、SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウントです。

表 46. 「ユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	最大長は 12 文字です。ユーザー名では、大文字小文字が区別されません。 SAP アプリケーション内に CPIC ユーザー・アカウントをセットアップすること、およびこのアカウントに、アダプターによってサポートされるビジネス・オブジェクトで必要とされるデータを操作するために必要な特権を与えることをお勧めします。例えば、アダプターで特定の SAP ビジネス・トランザクションを実行する必要がある場合は、SAP アプリケーション内のアダプターのアカウントに、これらのトランザクションの実行を可能にするための権限を設定する必要があります。

表 46. 「ユーザー名」の詳細 (続き)

例	SapUser
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名

このプロパティは、データベースに接続するためのユーザー名です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_UserName」と表示されます。

表 47. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし.
プロパティ・タイプ	String
使用法	データ・ソースからのデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用するユーザー名。命名規則については、データベースの資料を参照してください。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

X509 証明書 (X509 certificate)

このプロパティは、ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

表 48. 「X509 証明書 (X509 certificate)」の詳細

必須	いいえ。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	SrcMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、X509 証明書の値を指定することができます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ビジネス・オブジェクトでの空の XML タグの送信

処理済みのビジネス・オブジェクトをエンドポイントに送信する場合、データを持たないビジネス・オブジェクトのフィールドについて、空のタグをアダプターで送信できるようになりました。この新機能は、新しい活動化仕様プロパティである「IDoc 空タグ」(IDocEmptyTag) によって使用できます。

ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイントについての Inbound イベント処理の構成情報を保持します。

活動化仕様プロパティは、エンドポイントの活動化中に使用され、アダプターに適切なイベント・リスナーを通知します。 Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用してイベントを受信してから、エンドポイントにイベントを転送します。

活動化仕様プロパティは外部サービス・ウィザードを使用して設定します。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターを使用して変更することができます。また、デプロイメント後には、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus 管理コンソール を使用して変更することができます。

ALE Inbound 処理のための活動化仕様プロパティとその説明を、以下の表に示します。各プロパティの詳細については、表の後のセクションで説明します。表の後のセクションにあるプロパティ詳細表の読み方については、プロパティの詳細についてのガイドを参照してください。

表 49. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
40 ページの『失敗コード』	aleFailureCode	ディスパッチ失敗の状況コードを指定します。
40 ページの『失敗テキスト』	aleFailureText	ディスパッチ失敗の記述テキストを指定します。
41 ページの『ALE パケット 監査』	alePacketUpdate	アダプターは ALEAUD を IDoc ごとに送信するかパケット (TID) ごとに送信するかを指定します。
41 ページの『選択更新』	aleSelectiveUpdate	標準 SAP 状況コードを更新するようにアダプターを構成した場合、更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定します。
42 ページの『状況メッセージ・コード』	aleStatusMsgCode	必要に応じて、アダプターが ALEAUD Message IDoc (ALEAUD01) を通知するときに使用するメッセージ・コードを指定します。
42 ページの『成功コード』	aleSuccessCode	Application Document Posted の成功状況コードを指定します。
43 ページの『成功テキスト』	aleSuccessText	成功した Application Document Posted の記述テキストを指定します。
43 ページの『ALE 更新状況』	aleUpdateStatus	すべてのメッセージ・タイプで監査証跡が必要であるかどうかを指定します。
44 ページの『送達は 1 回のみ』	AssuredOnceDelivery	保証された 1 回のみを送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。
44 ページの『自動作成イベント・テーブル』	EP_CreateTable	イベント・リカバリー・テーブルが存在しない場合に、アダプターがそれを自動的に作成するかどうかを示します。
45 ページの『クライアント』	クライアント	アダプターの接続先となる SAP システムのクライアント番号。
45 ページの『コード・ページ 番号』	Codepage	コード・ページの数値 ID を指定します。
47 ページの『イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI 名)』	EP_SchemaName	イベント・リカバリー・テーブルの自動作成に使用されるスキーマ。

表 49. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
46 ページの『セキュア・ネットワーク接続の有効化』	SrcMode	セキュア・ネットワーク接続モードを使用しているかどうかを表します。
47 ページの『イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名』	EP_DataSource_JNDIName	イベント・リカバリー用に構成されたデータ・ソースの JNDI 名。
47 ページの『イベント・リカバリー・テーブル名』	EP_TableName	イベント・リカバリー・テーブルの名前。
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、この回数に達すると失敗とマークされます。
48 ページの『RFC トレース・ファイルのフォルダー』	RfcTracePath	RFC トレース・ファイルが書き込まれるフォルダーに完全修飾ローカル・パスを設定します。
49 ページの『ゲートウェイ・ホスト』	GatewayHost	SAP ゲートウェイのホスト名。
49 ページの『ゲートウェイ・サービス』	GatewayService	RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID。
50 ページの『ホスト名』	ApplicationServerHost	アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。
50 ページの『IDoc 空タグ』	IDocEmptyTag	IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。
51 ページの『IDoc パケット・エラーの無視』	IgnoreIDocPacketErrors	IDoc パケットを処理中のアダプターでエラーが発生した場合のアダプターの動作を決定します。
51 ページの『言語コード』	言語コード	アダプターによる SAP へのログオンに使用される言語コードを指定します。
52 ページの『ログオン・グループ名』	Group	トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされた、アプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID。
52 ページの『ロード・バランシング』	loadBalancing	ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。
53 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』	connectionRetryLimit	アダプターは、指定された回数だけエンタープライズ情報システム (EIS) への接続を試行します。Outbound 操作での接続例外の数を減らす必要がある場合のみ選択してください。選択した場合、アダプターにより、各 Outbound 要求の接続が検証されます。
53 ページの『メッセージ・サーバー・ホスト』	MessageServerHost	メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。
54 ページの『リスナーの数』	NumberOfListeners	開始される予定のイベント・リスナーの数を指定します。
54 ページの『パートナー文字セット』	PartnerCharset	PartnerCharset エンコード方式を指定します。

表 49. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
55 ページの『パスワード』	パスワード	SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワード。
55 ページの『イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード』	EP_Password	データベースに接続するためのユーザー・パスワード。
55 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する』	RetryConnectionOnStartup	アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
56 ページの『RFC プログラム ID』	RfcProgramID	アダプターが SAP ゲートウェイに登録される際に使用される、リモート関数呼び出し ID。
56 ページの『RFC トレース・レベル』	RfcTraceLevel	全体的なトレース・レベルを指定します。
57 ページの『RFC トレース・オン』	RfcTraceOn	イベント・リスナーごとに RFC アクティビティの詳細を記述したテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。
58 ページの『SAP システム ID』	SAPSystemID	ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。
58 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』	SncLib	セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。
58 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』	SncMyname	セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。
59 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』	SncPartnername	セキュア・ネットワーク接続パートナーの名前を指定します。
59 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベル (Secure Network Connection security level)』	SncQop	セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベルを指定します。
60 ページの『システム番号』	SystemNumber	SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号。
60 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』	connectionRetryInterval	イベント・リスナーの再始動を試行する際の時間間隔を指定します。
60 ページの『ALE IDoc フィールド・データのトリム (Trim ALE IDoc field data)』	trimAleData	先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信するかどうかを指定します。
61 ページの『ユーザー名』	userName	SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウント。
61 ページの『イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名』	EP_UserName	データベースに接続するためのユーザー名。

表 49. ALE Inbound 処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		説明
ウィザード内	管理コンソール内	
62 ページの『X509 証明書 (X509 certificate)』	X509cert	ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

失敗コード

ここで入力する値によって、ALE モジュールがイベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に、アダプターが SAP 失敗状況コードを更新する方法が決まります。

表 50. 「ALE 失敗コード」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」
使用可能な値	68 58
デフォルト	40、51、68
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティの値を設定するのは、AleUpdateStatus の値を True に設定した場合に限られます。 このプロパティに値 68 を指定すると、アダプターは、ALE モジュールがイベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に SAP 失敗状況コードを更新します。SAP は、この値を 40 (アプリケーション文書が受信側システムで作成されない) に変換します。 AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。エンドポイントに正常に送信されなかった IDoc は、失敗とみなされます。この失敗を示すコードを指定するには、ALE 失敗コード・プロパティを使用します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

失敗テキスト

IDoc がエンドポイントに正常に送信されなかったというイベントで表示されるテキスト。

表 51. 「ALE 失敗テキスト」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	40、51、68
デフォルト	「68 エラー - これ以上処理されません」。テキスト・ボックス内の値は、失敗コードに応じて変更されます。
プロパティ・タイプ	String

表 51. 「ALE 失敗テキスト」の詳細 (続き)

使用法	このプロパティを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティを True に設定した場合に限られます。 テキスト・ストリングの長さは最大 70 文字です。 AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。エンドポイントに正常に送信されなかった IDoc は、失敗とみなされます。この失敗を示す説明テキストを指定するには、ALE 失敗テキスト・プロパティを使用します。
例	ALE Dispatch Failed
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ALE パケット監査

パケットごとの ALE 更新は、アダプターが ALEAUD 監査 IDoc をパケットごとに送信するか IDoc ごとに送信するかを示します。

表 52. 「ALE パケット監査 (ALE packet audit)」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	False (IDoc ごとに ALEAUD を送信する)
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	AleUpdateStatus が True に設定されている場合のみ、このプロパティを使用可能または使用不可にすることができます。 このプロパティを true に設定すると、アダプターは IDoc パケットごとに、そのパケット内のすべての IDoc に関する確認が含まれた ALEAUD を 1 つ送信します。 このプロパティを false に設定すると、アダプターは、アダプターで受信された IDoc ごとに 1 つの ALEAUD を送信します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

選択更新

更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定します。

表 53. 「ALE 選択更新」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String

表 53. 「ALE 選択更新」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティの値を設定できるのは、AleUpdateStatus を True に設定した場合に限られます。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。更新する IDoc Type と MessageType の組み合わせを指定するには、ALE 選択更新プロパティを使用します。</p> <p>このプロパティの構文は、IDocType: MessageType [;IDocType: MessageType [;...]] です。スラッシュ (/) の区切り文字で各 IDocType と MessageType を区切り、セミコロン (;) の区切り文字でセット内の項目を区切ります。</p>
例	<p>次の例では 2 つのセットを指定しています。この例では、MATMAS03 と DEBMAS03 は IDoc です。また MATMAS と DEBMAS はメッセージ・タイプです。</p> <p>MATMAS03/MATMAS;DEBMAS03/DEBMAS</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

状況メッセージ・コード

このプロパティでは、アダプターが ALEAUD01 IDoc (メッセージ・タイプは ALEAUD) を通知するときに使用するメッセージ・コードを指定します。

表 54. 「ALE 状況メッセージ・コード」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	使用可能なコードのリストについては、SAP テーブル TEDS1 を参照してください。
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティ・タイプ	String
使用法	<ul style="list-style-type: none"> AleUpdateStatus に True を設定した場合に限り、このプロパティに値を設定できます。 このメッセージ・コードは、SAP の受信側パートナーのプロファイルで構成する必要があります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

成功コード

IDoc を正常に通知できた場合の ALE サクセス・コード。

表 55. 「ALE サクセス・コード」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」
使用可能な値	30、41、55
デフォルト	「55 - アプリケーション文書が通知されました」。テキスト・ボックス内の値は、成功コードに応じて変更されます。
プロパティ・タイプ	Integer

表 55. 「ALE サクセス・コード」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティを True に設定した場合に限られます。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。通知する IDoc のコードを 53 として指定するには、ALE サクセス・コード・プロパティを使用します。</p> <p>IDoc をエンドポイントに送信した後も、SAP では IDoc の状況は 03 (IDoc がポートに通知される) のままです。IDoc の通知後に、アダプターは、現在の IDoc 番号と状況 53 と共に監査 IDoc を通知します。SAP は、現在の IDoc の状況を 41 (アプリケーション文書が受信側システムで作成される) に変換します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

成功テキスト

アプリケーション文書が正常に通知されたときに表示されるテキストです。

表 56. 「ALE サクセス・テキスト」の詳細

必須	AleUpdateStatus が True に設定されている場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	30、41、55
デフォルト	「55 - アプリケーション文書が通知されました」。テキスト・ボックス内の値は、成功コードに応じて変更されます。
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティを使用するのは、AleUpdateStatus プロパティを True に設定した場合に限られます。</p> <p>テキスト・ストリングの長さは最大 70 文字です。</p> <p>AleUpdateStatus プロパティを True に設定すると、アダプターは、イベント処理のために IDoc オブジェクトを取得した後に標準 SAP 状況コードを更新します。Application Document Posted を示す説明テキストを指定するには、ALE サクセス・テキスト・プロパティを使用します。</p>
例	ALE Dispatch OK
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ALE 更新状況

このプロパティは、すべてのメッセージ・タイプで監査証跡が必要であるかどうかを指定します。

表 57. 「ALE 更新状況」の詳細

必須	はい
使用可能な値	True False
デフォルト	False

表 57. 「ALE 更新状況」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>ALE モジュールがイベント処理用に IDoc オブジェクトを取得した後に、アダプターが標準 SAP 状況コードを更新するようにしたい場合は、このプロパティを True に設定します。</p> <p>この値を True に設定した場合は、以下のプロパティも設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AleFailureCode • AleSuccessCode • AleFailureText • AleSuccessText
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

送達は 1 回のみ

このプロパティでは、保証された 1 回みの送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。

表 58. 「送達は 1 回のみ」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	False
プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ 配信されます。値を False にすると、1 回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合のみ使用されます。エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象でない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

自動作成イベント・テーブル

イベント・テーブルを自動的に作成するかどうかを指定します。

表 59. 「自動作成イベント・テーブル」の詳細

必須	「イベントの送達は 1 回のみ」を True に設定した場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」。
使用可能な値	True False
デフォルト	True

表 59. 「自動作成イベント・テーブル」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティは、イベント・リカバリー・テーブルが存在しない場合に、アダプターがそれを自動的に作成するかどうかを示します。</p> <p>管理コンソールでは、このプロパティが「EP_CreateTable」と表示されます。</p> <p>True の値を指定してテーブルを自動的に作成する場合は、イベント・テーブルに関する情報 (イベント・リカバリー・テーブルの名前など) を指定する必要があります。</p> <p>イベント・リカバリー・テーブル名プロパティとして指定する値を使用して、テーブルが作成されます。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

クライアント

このプロパティは、アダプターによって接続される SAP システムのクライアント番号です。

表 60. 「クライアント」の詳細

必須	はい
使用可能な値	000 から 999 までの範囲の値を入力することができます。
デフォルト	100
プロパティタイプ	Integer
使用法	<p>アプリケーションで SAP サーバーへのログオンが試みられる際に、SAP サーバーによって、このアプリケーションにそれに関連付けられたクライアント番号があることが要求されます。「クライアント」プロパティ値は、SAP サーバーへのログオンを試みているクライアント (アダプター) を識別するものです。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

コード・ページ番号

コード・ページの数値 ID。

表 61. 「コード・ページ番号」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	<p>0000 から 9999 までの範囲の値を入力することができます。</p> <p>SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。</p>
デフォルト	このプロパティのデフォルト値は、「言語コード」プロパティに設定された値の条件に従って決定されます。
プロパティタイプ	Integer

表 61. 「コード・ページ番号」の詳細 (続き)

使用法	コード・ページ番号に割り当てられた値によって使用するコード・ページが定義され、またこの値は言語コード・プロパティに設定された値と 1 対 1 の関係です。コード・ページ番号により、該当の言語との関連付けが設定されます。 各言語コード値には、それに関連付けられたコード・ページ番号値があります。例えば、英語の言語コードは EN です。使用する言語コードとして「EN (英語)」を選択した場合は、コード・ページ番号は「EN (英語)」に関連付けられた数値に自動的に設定されます。EN (英語) の SAP コード・ページ番号は 1100 です。
例	「言語コード」を JA (日本語) に設定した場合は、「コード・ページ番号」は 8000 に設定されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

データベース・スキーマ名

このプロパティは、イベント・リカバリー・テーブルの自動作成に使用されるスキーマです。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_SchemaName」と表示されません。

表 62. 「データベース・スキーマ名」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし.
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプター・イベント・パーシスタンス機能で使用するデータベースのスキーマ名を指定します。
例	ALE_SCHEMA
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続の有効化

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続モードを有効にするかどうかを表します。

表 63. 「セキュア・ネットワーク接続の有効化」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 (オフ) 1 (オン)
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	String

表 63. 「セキュア・ネットワーク接続の有効化」の詳細 (続き)

使用法	<p>セキュア・ネットワーク接続を使用する場合は、この値を 1 (オン) に設定します。</p> <p>この値を 1 に設定した場合は、以下のプロパティーも設定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 58 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』 • 58 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』 • 59 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』 • 59 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)』。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名

このプロパティーは、イベント・リカバリー用に構成されたデータ・ソースの JNDI 名です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティーが「EP_DataSource_JNDIName」と表示されます。

表 64. 「イベント・リカバリー・データ・ソース (JNDI) 名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティー・タイプ	String
使用法	<p>イベントのリカバリー処理で使用します。このデータ・ソースは、管理コンソール に作成する必要があります。アダプターは、イベントの状態を保持する ためにデータ・ソースを使用します。</p>
例	jdbc/DB2
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

イベント・リカバリー・テーブル名

このプロパティーは、イベント・リカバリー・テーブルの名前です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティーが「EP_TableName」と表示されます。

表 65. 「イベント・リカバリー・テーブル名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティー・タイプ	String

表 65. 「イベント・リカバリー・テーブル名」の詳細 (続き)

使用法	イベントのリカバリー処理で使用します。命名規則については、データベースの資料を参照してください。 エンドポイントごとに別々のイベント・リカバリー・テーブルを構成することをお勧めします。すべてのイベント・リカバリー・テーブルを保持するために、同じデータ・ソースを使用することができます。
例	EVENT_TABLE
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 66. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。 デフォルト このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。 0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。 > 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。 < 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・ファイルのフォルダー

このプロパティは、RFC トレース・ファイルの書き込み先となるフォルダーの完全修飾ローカル・パスを設定します。

表 67. 「RFC トレース・ファイルのフォルダー」の詳細

必須	いいえ
----	-----

表 67. 「RFC トレース・ファイルのフォルダー」の詳細 (続き)

デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	RFC トレース・ファイルが書き込まれる完全修飾ローカル・パスを指定します。 「RFC トレース・オン」が False (選択しない) に設定されている場合、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」プロパティの値を設定することはできません。 既存の成果物を変更する場合、このフィールドは編集できません。
例	c:\temp\rfcTraceDir
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・ホスト

このプロパティは、ゲートウェイ・ホストの名前です。ゲートウェイ・ホストの IP アドレスまたは名前のいずれかを入力します。ゲートウェイ・ホストの名前に関する詳細については、SAP 管理者に問い合わせてください。

表 68. 「ゲートウェイ・ホスト」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	このプロパティは、SAP ゲートウェイのホスト名です。このゲートウェイによって、SAP システム上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。 指定されたホストは、リソース・アダプター用のゲートウェイとして使用されます。 最大長は 20 文字です。コンピューター名の長さが 20 文字を超える場合は、THOSTS テーブル内にシンボル名を定義します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・サービス

このプロパティは、RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID です。

表 69. 「ゲートウェイ・サービス」の詳細

必須	はい
デフォルト	sapgw00
プロパティタイプ	String

表 69. 「ゲートウェイ・サービス」の詳細 (続き)

使用法	これらのサービスによって、SAP サーバー上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。このサービスの名前は、通常 <code>sapgw00</code> という形式で、00 が SAP システム番号です。 最大 20 文字です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ホスト名

アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。

表 70. 「ホスト名」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用されない場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	アダプターをロード・バランシングなしで実行するように構成した場合は、このプロパティーで、アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバーの IP アドレスまたは名前を指定します。
例	sapServer
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

IDoc 空タグ

このプロパティーは、IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。

表 71. IDoc 空タグ

必須	いいえ
使用可能な値	BEFORE_AND_AFTER ONLY_BEFORE ALL_UNPOPULATED_FIELDS_SEGMENTS
デフォルト	ONLY_BEFORE
プロパティー・タイプ	String

表 71. IDoc 空タグ (続き)

使用法	<p>このプロパティを使用して、以下の IDoc 空タグのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> BEFORE_AND_AFTER - IDoc セグメント内のデータ取り込み済みフィールドの前後において、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。 ONLY_BEFORE - IDoc セグメント内のデータ取り込み済みフィールドの前に、データが取り込まれていないフィールドの空タグを組み込みます。 ALL_UNPOPULATED_FIELDS_SEGMENTS - すべての IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

IDoc パケット・エラーの無視

IDoc パケット・エラーを無視するかどうかを指定します。

表 72. 「IDOC パケット・エラーの無視」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>アダプターは、IDoc パケットの処理中にエラーに遭遇すると、以下の 2 つの動作のうちのどちらかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> このプロパティが False に設定されている場合、アダプターはそのパケット内の IDoc の処理の続行を中止し、SAP システムにエラーを報告します。 このプロパティが True に設定されている場合、アダプターはエラーをログに記録し、そのパケット内の残りの IDoc の処理を継続して行います。 <p>トランザクションの状況には、INPROGRESS というマークが付けられます。アダプターのログに、失敗した IDoc の番号が表示されているため、それらの個々の IDoc を個別に再実行依頼する必要があります。これらのレコードは、イベント・リカバリー・テーブルで手動で保守する必要があります。</p> <p>このプロパティは、単一の IDoc および非分割 IDoc パケットには使用されません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

言語コード

このプロパティでは、アダプターによるログオンに使用される「言語コード」を指定します。

表 73. 「言語コード」の詳細

必須	はい
使用可能な値	SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。

表 73. 「言語コード」の詳細 (続き)

デフォルト	「言語コード」プロパティのデフォルト値は、システム・ロケールに基づきます。
プロパティ・タイプ	String
使用法	サポートされる各言語の前に 2 文字の言語コードが付いています。言語自体は括弧内に表示されます。 リスト内に表示される言語コードは、SAP のデフォルトの非 Unicode システムとアラビア語用の 41 の言語一式を表します。 選択した値によって、「コード・ページ番号」プロパティの値が決まります。 言語コードを手動で入力する場合は、言語を括弧で囲んで入力する必要はありません。
例	システム・ロケールが英国の場合は、このプロパティの値は EN (英語) です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ログオン・グループ名

このプロパティは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID です。

表 74. 「ログオン・グループ」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
使用可能な値	ログオン・グループの作成、およびトランザクション SMLG の呼び出しについては、SAP の資料を参照してください。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターがロード・バランシング用に構成された場合は、このプロパティは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前を表します。 ログオン・ロード・バランシングにより、ログオン接続の複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスへの動的分散が可能になります。 最大 20 文字です。ほとんどの SAP システムでは、SPACE ログオン・グループが SAP によって予約されています。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ロード・バランシング

このプロパティでは、ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。

表 75. ロード・バランシングの詳細

必須	はい
----	----

表 75. ロード・バランシングの詳細 (続き)

使用可能な値	TrueFalse
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	SAP 構成でロード・バランシングが使用されている場合、この値は TRUE に設定する必要があります。TRUE に設定する場合は、メッセージ・サーバーのホスト、ログオン・グループ、および SAP システム ID が指定される必要があります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の最大再試行回数

このプロパティーは、アダプターがエンタープライズ情報システム (EIS) への接続の作成を試行する回数を指定します。アダプターは、指定された回数だけ EIS への接続を試行します。Outbound 操作での接続例外の数を減らす必要がある場合にのみ選択してください。選択した場合、アダプターにより、各 Outbound 要求の接続が検証されます。

表 76. 「クライアントのリセット (Reset Client)」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	<p>正の値のみが有効です。</p> <p>アダプターが Outbound 接続に関連するエラーを検出した場合、アダプターは、(物理接続が確立されていない場合) システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒) プロパティーに指定された時間遅延に基づいて、このプロパティーに指定された回数だけ物理接続の確立を試行します。</p> <p>この値が 0 の場合、アダプターは、EIS 接続の検証は実行せずに Outbound 操作を実行します。</p> <p>この値が > 0 の場合、アダプターは各要求時に EIS 接続がアクティブかどうかを検証します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 接続が有効な場合、操作は完了します。 • 接続が無効な場合、アダプターは現在の管理接続を無効にします。新しい管理接続 (新規物理接続) が作成されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

メッセージ・サーバー・ホスト

このプロパティーでは、メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。

表 77. 「メッセージ・サーバー・ホスト」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、この SAP システムに属しているすべてのサーバー (インスタンス) にロード・バランシングに使用される他のサーバーの存在を通知するホストの名前を指定します。 メッセージ・サーバー・ホストには、RFC クライアントを適切なアプリケーション・サーバーに誘導できるように、RFC クライアント用のロード・バランシングに関する情報が含まれていません。
例	SAPERP05
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

リスナーの数

このプロパティでは、イベントによって開始されるリスナーの数を指定します。

表 78. 「リスナーの数」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	1
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	イベントの順序付けのために、このプロパティは 1 に設定してください。 アダプターのパフォーマンスを向上させるには、リスナーの数を増やします。 注: リスナーの数が 0 の場合、アダプターは開始されません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パートナー文字セット

このプロパティでは、パートナー文字セットのエンコードを指定します。

表 79. 「パートナー文字セット」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	UTF-8
プロパティ・タイプ	String
使用法	エンコード方式が指定されている場合にはその方式が使用されますが、それ以外はデフォルトのエンコード方式が使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パスワード

このプロパティは、SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワードです。

表 80. 「パスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	パスワードに対する制約事項は、SAP Web Application Server のバージョンによって異なります。 <ul style="list-style-type: none">• SAP Web Application Server バージョン 6.40 以前では、パスワードに以下の制限があります。<ul style="list-style-type: none">– 大文字である必要があります– 長さが 8 文字である必要があります• SAP Web Application Server バージョン 6.40 よりも後のバージョンでは、パスワードの制限が以下のように変更されました。<ul style="list-style-type: none">– 大文字小文字を区別しません– 長さが 40 文字まで可能です
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	はい

イベント・データ・ソースに接続するのに使用されるパスワード

このプロパティは、データベースに接続するためのユーザー・パスワードです。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_Password」と表示されます。

表 81. 「イベント・データ・ソースに接続するためのパスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、データ・ソースからのデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンス処理で使用するパスワードを指定します。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

開始時に EIS 接続を再試行する

このプロパティは、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。このプロパティは、53 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』および 60 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』と共に使用されます。

表 82. 開始時に EIS 接続を再試行する

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>値が true である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行することを示します。以下のプロパティの値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 53 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』 60 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』 <p>値が false である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行しないことを示します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC プログラム ID

このプロパティは、アダプターが SAP ゲートウェイに登録される際に使用されるプログラム ID です。

表 83. 「RFC プログラム ID」の詳細

必須	はい
使用可能な値	SAP トランザクション SM59 (Display and Maintain RFC Destinations (RFC 宛先の照会と更新)) を使用して、選択可能な RFC プログラム ID のリストを確認します。
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティタイプ	String
使用法	<p>アダプターは、リスナー・スレッドが RFC 対応関数からのイベントを処理できるように、ゲートウェイに登録されます。この値は、SAP アプリケーション内に登録されたプログラム ID と一致している必要があります。</p> <p>最大長は 64 文字です。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・レベル

このプロパティでは、全体的なトレース・レベルを指定します。

表 84. 「RFC トレース・レベル」の詳細

必須	いいえ
----	-----

表 84. 「RFC トレース・レベル」の詳細 (続き)

使用可能な値	0 - エラーなし 1 - エラーおよび警告 2 - 実行パス、エラーおよび警告 3 - 完全な実行パス、エラーおよび警告 4 - 実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 6 - 完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 7 - デバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告 8 - 詳細なデバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告
デフォルト	1
プロパティタイプ	Integer
使用法	「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・オン

このプロパティでは、イベント・リスナーごとの RFC アクティビティの詳細が記載されたテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。

表 85. 「RFC トレース・オン」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>値 True を指定すると、トレースが活動化され、テキスト・ファイルが生成されます。</p> <p>このファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリ内に作成されます。このファイルには、rfx という接頭部と trc というファイル・タイプ (例えば、rfc03912_02220.trc) が付きます。</p> <p>これらのテキスト・ファイルは、すぐにサイズが大きくなる可能性があるため、開発環境のみで使用してください。</p> <p>「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」または「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。</p>
例	<p>このファイル内の情報には、例えば、RfcCall FUNCTION BAPI_CUSTOMER_GETLIST とその後にインターフェース内のパラメーターの情報、または RFC Info rfctable とその後にインターフェース・テーブルの 1 つからのデータなどがあります。</p> <p>このトレース・ファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリ内に作成されます。トレース・ファイルには .trc というファイル拡張子が付き、ファイル名には先頭に文字 rfc が付きその後には固有 ID が付きます。例えば、rfc03912_02220.trc となります。</p>
グローバル化	いいえ

表 85. 「RFC トレース・オン」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

SAP システム ID

このプロパティでは、ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。

表 86. 「SAP システム ID」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	値は 3 文字である必要があります
例	DYL
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。

表 87. 「セキュア・ネットワーク接続のライブラリー・パス (Secure Network Connection library path)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、サービスを提供するライブラリーのパスも指定します。
例	/WINDOWS/system32/gssapi32.dll
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。

表 88. 「セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String

表 88. 「セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)」の詳細 (続き)

使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続名を指定します。
例	DOMAINNAME/USERNAME
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続のパートナーの名前を指定します。

表 89. 「セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続パートナーの名前を指定します。
例	CN=sap00.saperpdev, OU=Adapter, O=IBM, C=US
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベルを指定します。

表 90. 「セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
使用可能な値	<ul style="list-style-type: none"> 1 (認証のみ) 2 (保全性保護) 3 (プライバシー保護) 8 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/use の値を使用) 9 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/max の値を使用)
デフォルト	3 (プライバシー保護)
プロパティ・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続のセキュリティー・レベルを示す値を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム番号

このプロパティは、SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号です。

表 91. 「システム番号」の詳細

必須	はい
使用可能な値	00 から 99 までの範囲の値を入力することができます
デフォルト	00
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	システム番号では、さらに「ゲートウェイ・サービス」を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)

このプロパティは、エンタープライズ情報システム (EIS) への接続を試行する際の時間間隔を指定します。

表 92. 「システム接続に失敗した場合の再試行間隔」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	正整数
デフォルト	60000
計測単位	ミリ秒
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	このプロパティでは、アダプターで Outbound 接続に関連するエラーが発生したときに、アダプターが Outbound 接続の再確立を試行してから再度試行するまでの間に待機する時間間隔を指定します。これはデフォルトでは使用不可になっており、システム接続に失敗した場合の最大再試行回数の値が 0 より大きい場合のみ使用可能になります。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ALE IDoc フィールド・データのトリム (Trim ALE IDoc field data)

このプロパティは、先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信するかどうかを指定します。

表 93. トリムする、ALE IDoc フィールド日付を

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean

表 93. トリムする、ALE Idoc フィールド日付を (続き)

使用法	先頭の空白文字をアダプターによってトリムしてからエンドポイントに送信する場合は、値を True に設定します。デフォルトでは、この値は True に設定されています。 先頭の空白文字をアダプターによってトリムしない場合は、値を False に設定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ユーザー名

このプロパティは、SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウントです。

表 94. 「ユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	最大長は 12 文字です。ユーザー名では、大文字小文字が区別されません。 SAP アプリケーション内に CPIC ユーザー・アカウントをセットアップすること、およびこのアカウントに、アダプターによってサポートされるビジネス・オブジェクトで必要とされるデータを操作するために必要な特権を与えることをお勧めします。例えば、アダプターで特定の SAP ビジネス・トランザクションを実行する必要がある場合は、SAP アプリケーション内のアダプターのアカウントに、これらのトランザクションの実行を可能にするための権限を設定する必要があります。
例	SapUser
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名

このプロパティは、データベースに接続するためのユーザー名です。

注: 管理コンソールでは、このプロパティが「EP_UserName」と表示されます。

表 95. 「イベント DataSource に接続するのに使用されるユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし。
プロパティ・タイプ	String
使用法	データ・ソースからのデータベース接続を取得するためにイベント・パーシスタンスで使用するユーザー名。命名規則については、データベースの資料を参照してください。
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

X509 証明書 (X509 certificate)

このプロパティは、ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

表 96. 「X509 証明書 (X509 certificate)」の詳細

必須	いいえ。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	SnCMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、X509 証明書の値を指定することができます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

拡張イベント処理の活動化仕様プロパティ

活動化仕様プロパティは、メッセージ・エンドポイント用の Inbound イベント処理の構成情報を保持するプロパティです。

活動化仕様プロパティは、エンドポイントの活動化中に使用され、アダプターに適切なイベント・リスナーを通知します。Inbound 処理中に、アダプターはこれらのイベント・リスナーを使用してイベントを受信してから、エンドポイントにイベントを転送します。

活動化仕様プロパティは外部サービス・ウィザードを使用して設定します。これらのプロパティは、WebSphere Integration Developer アセンブリー・エディターを使用して変更することができます。また、デプロイメント後には、WebSphere Process Server または WebSphere Enterprise Service Bus 管理コンソールを使用して変更することができます。

拡張イベント Inbound 処理の活動化仕様プロパティのリストを、以下の表に示します。各プロパティの完全な説明は、表に続くセクションで説明します。表の後のセクションにあるプロパティ詳細表の読み方については、プロパティの詳細についてのガイドを参照してください。

表 97. 拡張イベント処理の活動化仕様プロパティ

プロパティ名		
エンタープライズ・サービス・ウィザード内	管理コンソール内	目的
64 ページの『イベント・フィルター用のアダプター・インスタンス (AdapterInstanceEventFilter)』	AdapterInstanceEventFilter	このアダプター・インスタンスがイベント・ストア内の特定のイベントを処理するかどうかを決定する ID
66 ページの『送達は 1 回のみ』	AssuredOnceDelivery	保証された 1 回のみを送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。
67 ページの『クライアント』	クライアント	アダプターの接続先となる SAP システムのクライアント番号。
67 ページの『コード・ページ番号』	Codepage	コード・ページの数値 ID を指定します。

表 97. 拡張イベント処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		
エンタープライズ・サービス・ウィザード内	管理コンソール内	目的
68 ページの『セキュア・ネットワーク接続の有効化』	SnCMode	セキュア・ネットワーク接続モードを使用しているかどうかを表します。
68 ページの『送達タイプ (DeliveryType)』	DeliveryType	イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。
69 ページの『処理するイベント・タイプ (EventTypeFilter)』	EventTypeFilter	どのイベントをアダプターが配信するかをアダプターに示す、区切り文字で区切られているイベント・タイプのリスト。
失敗したイベントの再試行制限	FailedEventRetryLimit	アダプターの再送信の試行回数で、この回数に達すると失敗とマークされます。
70 ページの『RFC トレース・ファイルのフォルダー』	RfcTracePath	RFC トレース・ファイルが書き込まれるフォルダーに完全修飾ローカル・パスを設定します。
70 ページの『ゲートウェイ・ホスト』	GatewayHost	SAP ゲートウェイのホスト名。
71 ページの『ゲートウェイ・サービス』	GatewayService	RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID。
71 ページの『ホスト名』	ApplicationServerHost	アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。
72 ページの『IDoc 空タグ』	IDocEmptyTag	IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。
72 ページの『言語コード』	言語コード	アダプターによる SAP へのログオンに使用される言語コードを指定します。
73 ページの『ログオン・グループ名』	Group	トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされた、アプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID。
73 ページの『ロード・バランシング』	loadBalancing	ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。
74 ページの『各ポーリング時に収集されるイベントの最大数』	ポーリング数量	各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数
74 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』	RetryLimit	エラーが発生したあと、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数。
74 ページの『メッセージ・サーバー・ホスト』	MessageServerHost	メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。
75 ページの『パートナー文字セット』	PartnerCharset	PartnerCharset エンコード方式を指定します。
75 ページの『パスワード』	パスワード	SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワード。

表 97. 拡張イベント処理の活動化仕様プロパティ (続き)

プロパティ名		
エンタープライズ・サービス・ウィザード内	管理コンソール内	目的
76 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する』	RetryConnectionOnStartup	アダプターが起動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。
76 ページの『RFC トレース・レベル』	RfcTraceLevel	全体的なトレース・レベルを指定します。
77 ページの『RFC トレース・オン』	RfcTraceOn	イベント・リスナーごとに RFC アクティビティの詳細を記述したテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。
77 ページの『SAP システム ID』	SAPSystemID	ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。
78 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』	SncLib	セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。
78 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』	SncMyname	セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。
79 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』	SncPartnername	セキュア・ネットワーク接続パートナーの名前を指定します。
79 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベル (Secure Network Connection security level)』	SncQop	セキュア・ネットワーク接続のセキュリティ・レベルを指定します。
80 ページの『ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)』	StopPollingOnError	ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。
80 ページの『システム番号』	SystemNumber	SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号。
80 ページの『イベントのポーリングの間隔 (ミリ秒)』	ポーリング間隔	ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さ
81 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』	RetryInterval	Inbound 操作時のエラー後、新規接続を確立しようとする試行間にアダプターが待機する時間の長さ
82 ページの『ユーザー名』	userName	SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウント。
82 ページの『X509 証明書 (X509 certificate)』	X509cert	ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

イベント・フィルター用のアダプター・インスタンス (AdapterInstanceEventFilter)

このプロパティは、このアダプター・インスタンスがイベント・ストア内の特定のイベントを処理するかどうかを制御します。

表 98. 「イベント・フィルター用のアダプター・インスタンス」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	NULL
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>このプロパティは、WebSphere Business Integration Adapter for mySAP から WebSphere Adapter for SAP Software にマイグレーションできるようにします。WebSphere Business Integration Adapter for mySAP では、複数のアダプター・インスタンスで同タイプのイベントを処理できるようにして、ポリシーの大きなイベント・タイプのロード・バランシングを行うことができます。ロード・バランシングが不要な場合は、単独のアダプター・インスタンスで特定タイプのすべてのイベントを処理します。このプロパティを利用すれば、現在、connectorID フィルター処理を使用している WBIA のお客様が円滑に JCA にマイグレーションを行うことができます。</p> <p>WebSphere Adapter for SAP Software では、通常、このようなロード・バランシングは必要ありませんが、これをサポートすることによって、イベントをイベント・ストアに書き込むデータベース・トリガーその他の機構を変更せずにマイグレーションが行えるようにしています。</p> <p>AdapterInstanceEventFilter プロパティは、WebSphere Business Integration Adapter for mySAP の ConnectorID プロパティに相当します。</p> <p>この機能を使用するには、イベント・ストアにイベントを作成するデータベース・トリガーやその他の機構で、適切な値を ConnectorId 列に割り当てる必要があります。</p> <p>表 99 は、AdapterInstanceEventFilter プロパティと、イベント・ストアの ConnectorId 列の値との相互関係を示しています。</p> <p>EventTypeFilter および AdapterInstanceEventFilter プロパティの両方が設定された場合、アダプターは、両方の基準を満たすイベントだけを処理します。すなわち、EventTypeFilter プロパティにタイプが指定されており、ConnectorId 列が AdapterInstanceEventFilter プロパティに一致しているイベントだけが処理されます。</p>
例	表 99 を参照してください。
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

表 99. AdapterInstanceEventFilter プロパティと、イベント・ストアの ConnectorId 列との相互関係

AdapterInstanceEventFilter プロパティ	イベントの ConnectorId 列	結果
NULL	NULL	アダプターはイベントを処理します。
NULL	Instance1	ConnectorId 列がチェックされていないため、アダプターはイベントを処理します。

表 99. AdapterInstanceEventFilter プロパティと、イベント・ストアの ConnectorId 列との相互関係 (続き)

AdapterInstanceEventFilter プロパティ	イベントの ConnectorId 列	結果
Instance1	Instance1	アダプターはイベントを処理します。
Instance1	Instance2	インスタンス ID が一致しないため、アダプターはイベントを処理しません。
Instance1	NULL	インスタンス ID が一致しないため、アダプターはイベントを処理しません。

送達は 1 回のみ

このプロパティでは、保証された 1 回だけの送達を Inbound イベントに提供するかどうかを指定します。

表 100. 「送達は 1 回のみ」の詳細

必須	はい
デフォルト	True
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、1 回のイベント送達を確保する機能が提供されます。つまり、各イベントは 1 回のみ 配信されます。値を False にすると、1 回のイベント送達を確保する機能は提供されませんが、パフォーマンスは向上します。</p> <p>このプロパティを True に設定すると、アダプターにより、トランザクション (XID) 情報のイベント・ストアへの保管が試行されます。このプロパティを False に設定した場合は、アダプターではこの情報の保管は行われません。</p> <p>このプロパティは、エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象である場合のみ使用されます。エクスポート・コンポーネントがトランザクションの対象でない場合は、このプロパティの値に関係なく、トランザクションを使用することはできません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

クライアント

このプロパティは、アダプターによって接続される SAP システムのクライアント番号です。

表 101. 「クライアント」の詳細

必須	はい
使用可能な値	000 から 999 までの範囲の値を入力することができます。
デフォルト	100
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	<p>アプリケーションで SAP サーバーへのログオンが試みられる際に、SAP サーバーによって、このアプリケーションにそれに関連付けられたクライアント番号があることが要求されます。「クライアント」プロパティ値は、SAP サーバーへのログオンを試みているクライアント (アダプター) を識別するものです。</p>

表 101. 「クライアント」の詳細 (続き)

グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

クライアント

このプロパティは、アダプターによって接続される SAP システムのクライアント番号です。

表 102. 「クライアント」の詳細

必須	はい
使用可能な値	000 から 999 までの範囲の値を入力することができます。
デフォルト	100
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	アプリケーションで SAP サーバーへのログオンが試みられる際に、SAP サーバーによって、このアプリケーションにそれに関連付けられたクライアント番号があることが要求されます。「クライアント」プロパティ値は、SAP サーバーへのログオンを試みているクライアント (アダプター) を識別するものです。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

コード・ページ番号

コード・ページの数値 ID。

表 103. 「コード・ページ番号」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0000 から 9999 までの範囲の値を入力することができます。 SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。
デフォルト	このプロパティのデフォルト値は、「言語コード」プロパティに設定された値の条件に従って決定されます。
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	コード・ページ番号に割り当てられた値によって使用するコード・ページが定義され、またこの値は言語コード・プロパティに設定された値と 1 対 1 の関係です。コード・ページ番号により、該当の言語との関連付けが設定されます。 各言語コード値には、それに関連付けられたコード・ページ番号値があります。例えば、英語の言語コードは EN です。使用する言語コードとして「EN (英語)」を選択した場合は、コード・ページ番号は「EN (英語)」に関連付けられた数値に自動的に設定されます。EN (英語) の SAP コード・ページ番号は 1100 です。
例	「言語コード」を JA (日本語) に設定した場合は、「コード・ページ番号」は 8000 に設定されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

送達タイプ (DeliveryType)

このプロパティーでは、イベントがアダプターによってエクスポートに配信される順序を指定します。

表 104. 送達タイプの詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ORDERED UNORDERED
デフォルト	ORDERED
プロパティー・タイプ	String
使用法	以下の値がサポートされています。 <ul style="list-style-type: none">• ORDERED: アダプターは、一度に 1 つのイベントをエクスポートに配信します。• UNORDERED: アダプターは、一度にすべてのイベントをエクスポートに配信します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続の有効化

このプロパティーは、セキュア・ネットワーク接続モードを有効にするかどうかを表します。

表 105. 「セキュア・ネットワーク接続の有効化」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	0 (オフ) 1 (オン)
デフォルト	0
プロパティー・タイプ	String
使用法	セキュア・ネットワーク接続を使用する場合は、この値を 1 (オン) に設定します。 この値を 1 に設定した場合は、以下のプロパティーも設定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none">• 78 ページの『セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)』• 78 ページの『セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)』• 79 ページの『セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)』• 79 ページの『セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)』。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

処理するイベント・タイプ (EventTypeFilter)

このプロパティには、どのイベントをアダプターが配信するかをアダプターに示す、区切り文字で区切られているイベント・タイプのリストが入っています。

表 106. 「処理するイベント・タイプ」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	ビジネス・オブジェクト・タイプ のコンマ (,) 区切りのリスト
デフォルト	NULL
プロパティ・タイプ	String
使用法	イベントは、ビジネス・オブジェクト・タイプ別にフィルタリングされます。このプロパティを設定すると、アダプターは、リスト内に存在するイベントのみを配信するようになります。値が null の場合は、フィルターが適用されず、すべてのイベントはエクスポートに配信されることを示しています。
例	Customer ビジネス・オブジェクトおよび Order ビジネス・オブジェクトに関連するイベントのみを受信するには、値: Customer,Order を指定します。 EventTypeFilter および AdapterInstanceEventFilter プロパティの両方が設定された場合、アダプターは、両方の基準を満たすイベントだけを処理します。すなわち、EventTypeFilter プロパティにタイプが指定されており、ConnectorId 列が AdapterInstanceEventFilter プロパティに一致しているイベントだけが処理されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

失敗したイベントの再試行制限 (FailedEventRetryLimit)

このプロパティは、アダプターがイベントの再送信を試みる回数を指定します。この回数に達すると失敗とマークされます。

表 107. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	5
プロパティ・タイプ	Integer

表 107. 「失敗したイベントの再試行制限」の詳細 (続き)

使用法	<p>このプロパティは、この回数以上は失敗とマークする場合の、アダプターがイベントを送信する回数を指定する時に使用します。以下のいずれかの値を取ります。</p> <p>デフォルト</p> <p>このプロパティが設定されない場合、アダプターは、イベント送信失敗の後、さらに 5 回イベントの送信を試み、それでも送達できない場合にイベントを失敗とマーク付けします。</p> <p>0 アダプターは、回数無制限でイベントの送信を試行します。このプロパティが 0 に設定されると、イベントはイベント・ストアに残されたままになり、イベントが失敗とマークされることはなくなります。</p> <p>> 0 正の整数の場合、アダプターは、指定した回数再試行を行った後、イベントを失敗とマークします。</p> <p>< 0 負の整数の場合、アダプターは失敗したイベントの送信を再試行しません。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・ファイルのフォルダー

このプロパティは、RFC トレース・ファイルの書き込み先となるフォルダーの完全修飾ローカル・パスを設定します。

表 108. 「RFC トレース・ファイルのフォルダー」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	<p>RFC トレース・ファイルが書き込まれる完全修飾ローカル・パスを指定します。</p> <p>「RFC トレース・オン」が False (選択しない) に設定されている場合、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」プロパティの値を設定することはできません。</p> <p>既存の成果物を変更する場合、このフィールドは編集できません。</p>
例	c:\temp\rfcTraceDir
グローバル化	はい
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・ホスト

このプロパティは、ゲートウェイ・ホストの名前です。ゲートウェイ・ホストの IP アドレスまたは名前のいずれかを入力します。ゲートウェイ・ホストの名前に関する詳細については、SAP 管理者に問い合わせてください。

表 109. 「ゲートウェイ・ホスト」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	このプロパティは、SAP ゲートウェイのホスト名です。このゲートウェイによって、SAP システム上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。 指定されたホストは、リソース・アダプター用のゲートウェイとして使用されます。 最大長は 20 文字です。コンピューター名の長さが 20 文字を超える場合は、THOSTS テーブル内にシンボル名を定義します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ゲートウェイ・サービス

このプロパティは、RFC サービスを実行するゲートウェイ・ホスト上のゲートウェイの ID です。

表 110. 「ゲートウェイ・サービス」の詳細

必須	はい
デフォルト	sapgw00
プロパティ・タイプ	String
使用法	これらのサービスによって、SAP サーバー上の処理プロセスと外部プログラム間の通信が可能になります。このサービスの名前は、通常 sapgw00 という形式で、00 が SAP システム番号です。 最大 20 文字です。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ホスト名

アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバー・ホストの IP アドレスまたは名前を指定します。

表 111. 「ホスト名」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用されない場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	アダプターをロード・バランシングなしで実行するように構成した場合は、このプロパティで、アダプターによりログオンされるアプリケーション・サーバーの IP アドレスまたは名前を指定します。
例	sapServer
グローバル化	いいえ

表 111. 「ホスト名」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

IDoc 空タグ

このプロパティーは、IDoc セグメントにおいて、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。これらは、選択したオプションに基づいて、構成済みのエンドポイントに送信されます。

表 112. IDoc 空タグ

必須	いいえ
使用可能な値	BEFORE_AND_AFTER ONLY_POPULATED_FIELDS
デフォルト	ONLY_POPULATED_FIELDS
プロパティー・タイプ	String
使用法	このプロパティーを使用して、以下の IDoc 空タグのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> BEFORE_AND_AFTER - IDoc セグメント内のデータ取り込み済みフィールドの前後において、データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みます。 ONLY_POPULATED_FIELDS - データが取り込まれていないフィールドに空タグを組み込みません。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

言語コード

このプロパティーでは、アダプターによるログオンに使用される「言語コード」を指定します。

表 113. 「言語コード」の詳細

必須	はい
使用可能な値	SAP によってサポートされる言語と関連付けられたコード・ページ番号の完全なリストについては、SAP Note 7360 を参照してください。
デフォルト	「言語コード」プロパティーのデフォルト値は、システム・ロケールに基づきます。
プロパティー・タイプ	String
使用法	サポートされる各言語の前に 2 文字の言語コードが付いています。言語自体は括弧内に表示されます。 リスト内に表示される言語コードは、SAP のデフォルトの非 Unicode システムとアラビア語用の 41 の言語一式を表します。 選択した値によって、「コード・ページ番号」プロパティーの値が決まります。 言語コードを手動で入力する場合は、言語を括弧で囲んで入力する必要はありません。
例	システム・ロケールが英国の場合は、このプロパティーの値は EN (英語) です。
グローバル化	いいえ

表 113. 「言語コード」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

ログオン・グループ名

このプロパティは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前の ID です。

表 114. 「ログオン・グループ」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
使用可能な値	ログオン・グループの作成、およびトランザクション SMLG の呼び出しについては、SAP の資料を参照してください。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	<p>アダプターがロード・バランシング用に構成された場合は、このプロパティは、トランザクション SMLG 内に定義され、ログオン・ロード・バランシング用にリンクされたアプリケーション・サーバー・インスタンスのグループの名前を表します。</p> <p>ログオン・ロード・バランシングにより、ログオン接続の複数のアプリケーション・サーバー・インスタンスへの動的分散が可能になります。</p> <p>最大 20 文字です。ほとんどの SAP システムでは、SPACE ログオン・グループが SAP によって予約されています。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ロード・バランシング

このプロパティでは、ご使用の SAP 構成でロード・バランシングが使用されるかどうかを指定します。

表 115. ロード・バランシングの詳細

必須	はい
使用可能な値	TrueFalse
デフォルト	False
プロパティタイプ	Boolean
使用法	<p>SAP 構成でロード・バランシングが使用されている場合、この値は TRUE に設定する必要があります。TRUE に設定する場合は、メッセージ・サーバーのホスト、ログオン・グループ、および SAP システム ID が指定される必要があります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

各ポーリング時に収集されるイベントの最大数

このプロパティでは、各ポーリング期間中にアダプターがエクスポートに配信するイベント数を指定します。

表 116. 「各ポーリング時に収集されるイベントの最大数」の詳細

必須	はい
デフォルト	10
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	0 より大きい値を指定する必要があります
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の最大再試行回数

このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続の再確立を試行する回数を指定します。「開始時に EIS 接続を再試行する」プロパティが true に設定されている場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが Inbound 接続を再試行する最大回数も示します。

表 117. 「システム接続に失敗した場合の最大再試行回数」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	整数
デフォルト	0
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	正の値のみが有効です。 このプロパティでは、アダプターが Inbound 接続に関連したエラーを検出した場合に、アダプターが接続を再開しようとする回数を指定します。値が 0 の場合は、再試行回数が無制限になることを指定します。 負の値は、アダプターが Inbound 接続の確立を試行しないことを示します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

メッセージ・サーバー・ホスト

このプロパティでは、メッセージ・サーバーが実行されているホストの名前を指定します。

表 118. 「メッセージ・サーバー・ホスト」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String

表 118. 「メッセージ・サーバー・ホスト」の詳細 (続き)

使用法	このプロパティは、この SAP システムに属しているすべてのサーバー (インスタンス) にロード・バランシングに使用される他のサーバーの存在を通知するホストの名前を指定します。 メッセージ・サーバー・ホストには、RFC クライアントを適切なアプリケーション・サーバーに誘導できるように、RFC クライアント用のロード・バランシングに関する情報が含まれています。
例	SAPERP05
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パートナー文字セット

このプロパティでは、パートナー文字セットのエンコードを指定します。

表 119. 「パートナー文字セット」の詳細

必須	いいえ
デフォルト	UTF-8
プロパティ・タイプ	String
使用法	エンコード方式が指定されている場合にはその方式が使用されますが、それ以外はデフォルトのエンコード方式が使用されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

パスワード

このプロパティは、SAP アプリケーション・サーバー上にあるアダプターのユーザー・アカウントのパスワードです。

表 120. 「パスワード」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	パスワードに対する制約事項は、SAP Web Application Server のバージョンによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> • SAP Web Application Server バージョン 6.40 以前では、パスワードに以下の制限があります。 <ul style="list-style-type: none"> - 大文字である必要があります - 長さが 8 文字である必要があります • SAP Web Application Server バージョン 6.40 よりも後のバージョンでは、パスワードの制限が以下のように変更されました。 <ul style="list-style-type: none"> - 大文字小文字を区別しません - 長さが 40 文字まで可能です
グローバル化	いいえ

表 120. 「パスワード」の詳細 (続き)

BIDI 対応	はい
---------	----

開始時に EIS 接続を再試行する

このプロパティは、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、接続を再試行するかどうかを指定します。このプロパティは、74 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』および 81 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』と共に使用されます。

表 121. 開始時に EIS 接続を再試行する

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>値が true である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行することを示します。以下のプロパティの値を指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 74 ページの『システム接続に失敗した場合の最大再試行回数』 81 ページの『システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)』 <p>値が false である場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、アダプターが接続を再試行しないことを示します。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

RFC トレース・レベル

このプロパティでは、全体的なトレース・レベルを指定します。

表 122. 「RFC トレース・レベル」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	<p>0 - エラーなし</p> <p>1 - エラーおよび警告</p> <p>2 - 実行パス、エラーおよび警告</p> <p>3 - 完全な実行パス、エラーおよび警告</p> <p>4 - 実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告</p> <p>6 - 完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告</p> <p>7 - デバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告</p> <p>8 - 詳細なデバッグ・メッセージ、完全な実行パス、情報メッセージ、エラーおよび警告</p>
デフォルト	1
プロパティ・タイプ	Integer
使用法	「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。
グローバル化	いいえ

表 122. 「RFC トレース・レベル」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

RFC トレース・オン

このプロパティでは、イベント・リスナーごとの RFC アクティビティの詳細が記載されたテキスト・ファイルを生成するかどうかを指定します。

表 123. 「RFC トレース・オン」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティ・タイプ	Boolean
使用法	<p>値 True を指定すると、トレースが活動化され、テキスト・ファイルが生成されます。</p> <p>このファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリ内に作成されます。このファイルには、rfx という接頭部と trc というファイル・タイプ (例えば、rfc03912_02220.trc) が付きます。</p> <p>これらのテキスト・ファイルは、すぐにサイズが大きくなる可能性があるため、開発環境のみで使用してください。</p> <p>「RFC トレース・オン」が False に設定されている (選択されていない) 場合は、「RFC トレース・ファイルのフォルダー」または「RFC トレース・レベル」プロパティに値を設定できません。</p>
例	<p>このファイル内の情報には、例えば、RfcCall FUNCTION BAPI_CUSTOMER_GETLIST とその後にインターフェース内のパラメーターの情報、または RFC Info rfctable とその後にインターフェース・テーブルの 1 つからのデータなどがあります。</p> <p>このトレース・ファイルは、アダプター・プロセスが開始されたディレクトリ内に作成されます。トレース・ファイルには .trc というファイル拡張子が付き、ファイル名には先頭に文字 rfc が付きその後に固有 ID が付きます。例えば、rfc03912_02220.trc となります。</p>
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

SAP システム ID

このプロパティでは、ログオン・ロード・バランシングが使用可能にされる SAP システムのシステム ID を指定します。

表 124. 「SAP システム ID」の詳細

必須	はい (ロード・バランシングが使用される場合)
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	値は 3 文字である必要があります
例	DYL

表 124. 「SAP システム ID」の詳細 (続き)

グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)

このプロパティーは、セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。

表 125. 「セキュア・ネットワーク接続のライブラリー・パス (Secure Network Connection library path)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティーを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、サービスを提供するライブラリーのパスも指定します。
例	/WINDOWS/system32/gssapi32.dll
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続ライブラリーのパス (Secure Network Connection library path)

このプロパティーは、セキュア・ネットワーク接続サービスを提供するライブラリーのパスを指定します。

表 126. 「セキュア・ネットワーク接続のライブラリー・パス (Secure Network Connection library path)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティー・タイプ	String
使用法	SncMode プロパティーを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、サービスを提供するライブラリーのパスも指定します。
例	/WINDOWS/system32/gssapi32.dll
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)

このプロパティーは、セキュア・ネットワーク接続の名前を指定します。

表 127. 「セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし

表 127. 「セキュア・ネットワーク接続名 (Secure Network Connection name)」の詳細 (続き)

プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続名を指定します。
例	DOMAINNAME/USERNAME
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続のパートナーの名前を指定します。

表 128. 「セキュア・ネットワーク接続のパートナー (Secure Network Connection partner)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続パートナーの名前を指定します。
例	CN=sap00.saperpdev, OU=Adapter, O=IBM, C=US
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)

このプロパティは、セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベルを指定します。

表 129. 「セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)」の詳細

必須	はい (SncMode が 1 に設定されている場合); いいえ (その他の場合)。
使用可能な値	1 (認証のみ) 2 (保水性保護) 3 (プライバシー保護) 8 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/use の値を使用) 9 (アプリケーション・サーバーの snc/data_protection/max の値を使用)
デフォルト	3 (プライバシー保護)
プロパティタイプ	String
使用法	SncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、接続のセキュリティー・レベルを示す値を指定します。
グローバル化	いいえ

表 129. 「セキュア・ネットワーク接続のセキュリティー・レベル (Secure Network Connection security level)」の詳細 (続き)

BIDI 対応	いいえ
---------	-----

ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する (StopPollingOnError)

このプロパティーでは、ポーリング時にアダプターがエラーを検出した場合、アダプターがイベントのポーリングを停止するかどうかを指定します。

表 130. 「ポーリング時にエラーが検出された場合はアダプターを停止する」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	True False
デフォルト	False
プロパティー・タイプ	Boolean
使用法	このプロパティーを True に設定した場合、アダプターはエラーを検出するとポーリングを停止します。 このプロパティーを False に設定した場合、アダプターはポーリング時にエラーを検出すると例外をログに記録し、ポーリングを続行します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム番号

このプロパティーは、SAP アプリケーション・サーバーのシステム番号です。

表 131. 「システム番号」の詳細

必須	はい
使用可能な値	00 から 99 までの範囲の値を入力することができます
デフォルト	00
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	システム番号では、さらに「ゲートウェイ・サービス」を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

イベントのポーリングの間隔 (ミリ秒)

このプロパティーでは、ポーリング期間中にアダプターが待機する時間の長さを指定します。

表 132. イベントのポーリングの間隔 (ミリ秒)

必須	はい
使用可能な値	0 以上の整数

表 132. イベントのポーリングの間隔 (ミリ秒) (続き)

デフォルト	2000
計測単位	ミリ秒
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	イベントをポーリングする時間間隔は一定の割合で確立されます。つまり、ポーリング周期の実行が何かの理由で遅れた場合 (例えば、前のポーリング周期が完了するまでに予想より時間がかかった場合) は、遅延によって失われた時間を取り戻すために次のポーリング周期がすぐに開始されます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

システム接続に失敗した場合の再試行間隔 (ミリ秒)

このプロパティーでは、Inbound 接続の再確立の試行と次の試行の間の時間間隔を指定します。76 ページの『開始時に EIS 接続を再試行する』プロパティーが true に設定されている場合、アダプターが始動時に EIS に接続できない場合に、Inbound 接続を再試行してから次に再試行するまでにアダプターが待機する時間間隔も示します。

表 133. 「システム接続に失敗した場合の再試行間隔」の詳細

必須	いいえ
使用可能な値	正整数
デフォルト	60000
計測単位	ミリ秒
プロパティー・タイプ	Integer
使用法	このプロパティーでは、アダプターで Inbound 接続に関連するエラーが発生したときに、Inbound 接続の再確立の試行と次の試行の間にアダプターが待機する時間間隔を指定します。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

ユーザー名

このプロパティーは、SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウントです。

表 134. 「ユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティー・タイプ	String

表 134. 「ユーザー名」の詳細 (続き)

使用法	最大長は 12 文字です。ユーザー名では、大文字小文字が区別されません。 SAP アプリケーション内に CPIC ユーザー・アカウントをセットアップすること、およびこのアカウントに、アダプターによってサポートされるビジネス・オブジェクトで必要とされるデータを操作するために必要な特権を与えることをお勧めします。例えば、アダプターで特定の SAP ビジネス・トランザクションを実行する必要がある場合は、SAP アプリケーション内のアダプターのアカウントに、これらのトランザクションの実行を可能にするための権限を設定する必要があります。
例	SapUser
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

ユーザー名

このプロパティは、SAP サーバー上のアダプターのユーザー・アカウントです。

表 135. 「ユーザー名」の詳細

必須	はい
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	最大長は 12 文字です。ユーザー名では、大文字小文字が区別されません。 SAP アプリケーション内に CPIC ユーザー・アカウントをセットアップすること、およびこのアカウントに、アダプターによってサポートされるビジネス・オブジェクトで必要とされるデータを操作するために必要な特権を与えることをお勧めします。例えば、アダプターで特定の SAP ビジネス・トランザクションを実行する必要がある場合は、SAP アプリケーション内のアダプターのアカウントに、これらのトランザクションの実行を可能にするための権限を設定する必要があります。
例	SapUser
グローバル化	はい
BIDI 対応	はい

X509 証明書 (X509 certificate)

このプロパティは、ログオン・チケットとして使用される X509 証明書を指定します。

表 136. 「X509 証明書 (X509 certificate)」の詳細

必須	いいえ。
デフォルト	デフォルト値なし
プロパティ・タイプ	String
使用法	SyncMode プロパティを 1 (セキュア・ネットワーク接続を使用する) に設定した場合は、X509 証明書の値を指定することができます。
グローバル化	いいえ
BIDI 対応	いいえ

コンテンツの行タイプのサポート

アダプターでは、**Table Type** サブタイプまたは **Data Element** サブタイプの **Table Type** フィールドを含む BAPI をサポートするようになりました。アダプターでは、**Predefined Type** サブタイプのテーブル・タイプもサポートしています。この追加機能によって、これらのタイプのいずれかを含む BAPI を WebSphere Adapter for SAP Software を使ってディスカバーすることが可能です。

BAPI インターフェース

WebSphere Adapter for SAP Software は、単純 BAPI の Outbound 処理および Inbound 処理をサポートします。Outbound 処理では、クライアント・アプリケーションが SAP サーバー上の BAPI およびその他の RFC 対応関数を呼び出します。Inbound 処理では、SAP サーバーが RFC 対応関数 (BAPI 関数など) をアダプター経由でエンドポイントに送信します。

SAP サーバー上に新規顧客を作成するサービスを構築するものとします。まず、外部サービス・ウィザードを実行して BAPI_CUSTOMER_CREATEFROMDATA 関数を検出します。そうすると、ウィザードは BAPI_CUSTOMER_CREATEFROMDATA のビジネス・オブジェクト定義を、他の SCA サービス成果物とともに生成します。BAPI Outbound 処理時に、アダプターがサービス要求を受信し、データを BAPI 呼び出しに変換します。

単純 BAPI は、顧客のリストの検索などの単一操作を実行します。アダプターは、単一のビジネス・オブジェクト・スキーマを使用して各 BAPI 呼び出しを表すことによって、単純 BAPI 呼び出しをサポートします。

単純 BAPI は Outbound 処理または Inbound 処理に使用することができます。モジュールを単純 BAPI 用に構成するとき、同期 RFC 処理または非同期トランザクション RFC (tRFC) 処理を指定できます。さらに、Outbound 処理の場合は、非同期 Queued RFC (qRFC) 処理を指定することができます。この処理を指定すると、BAPI は SAP サーバー上の事前定義キューに配信されます。

- 同期 RFC 処理では、SAP サーバーとアダプターが処理の間、使用可能になっていなければなりません。
 - Outbound 処理では、クライアント・アプリケーションが要求を送信し、SAP サーバーからの応答を待ちます。
 - Inbound 処理では、SAP サーバーが要求をアダプター経由でエンドポイントに送信し、アダプターからの応答を待ちます。
- 非同期 tRFC Outbound 処理では、アダプターが SAP サーバーへの関数呼び出しにトランザクション ID を関連付けます。アダプターは SAP サーバーからの応答を待ちません。送達に失敗すると、クライアント・アプリケーションは TID を使用して要求を再送することができます。
- 非同期 tRFC Inbound 処理では、SAP サーバーが関数呼び出しを行った時点でアダプターが使用可能である必要はありません。この関数呼び出しは呼び出される関数のリストに登録され、成功するまで呼び出しが続けられます。

SAP サーバー上のユーザー定義 Outbound キューから関数呼び出しを送信する場合は、非同期 tRFC Inbound 処理も指定します。

- 非同期 qRFC Outbound 処理のプロセスは、非同期 tRFC Outbound 処理と似ています。TID が関数呼び出しに関連付けられ、アダプターは SAP サーバーからの応答を待ちません。さらに、BAPI は SAP サーバー上の事前定義キューに配信されます。BAPI を事前定義キューに送信することによって、BAPI の配信順序を保証することができます。

アダプターは、インポート、エクスポート、および変更のパラメーター・リストにある以下のデータ・タイプをサポートしています。

1. 基本タイプ
2. 複合データ・タイプ
 - a. テーブル・タイプ
 - 1) 行タイプ
 - a) 構造 (例 - BAPIRET2)
 - b) テーブル・タイプ (例 - TRTEXTS)
 - c) データ・エレメント (例 - TRACKTEXT)
 - d) ビュー (例 - T001W_BIW)
 - 2) 事前定義タイプ (例 - BIC_ADD_DATA_TT)
 - b. 構造

アダプターは、テーブル・パラメーター・リストにある以下のデータ・タイプをサポートしています。

1. フラットな行構造を持つテーブル (例 - BAPIRET2)

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間 1623 番 14 号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Department 2Z4A/SOM1
294 Route 100
Somers, NY 10589-0100
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向性および指針に関するすべての記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを

経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。「(c) (お客様の会社名) (西暦年).このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 (c) Copyright IBM Corp. _年を入れる_。 All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告:

診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

この製品には、Eclipse Project (<http://www.eclipse.org>) により開発されたソフトウェアが含まれています。



Printed in Japan